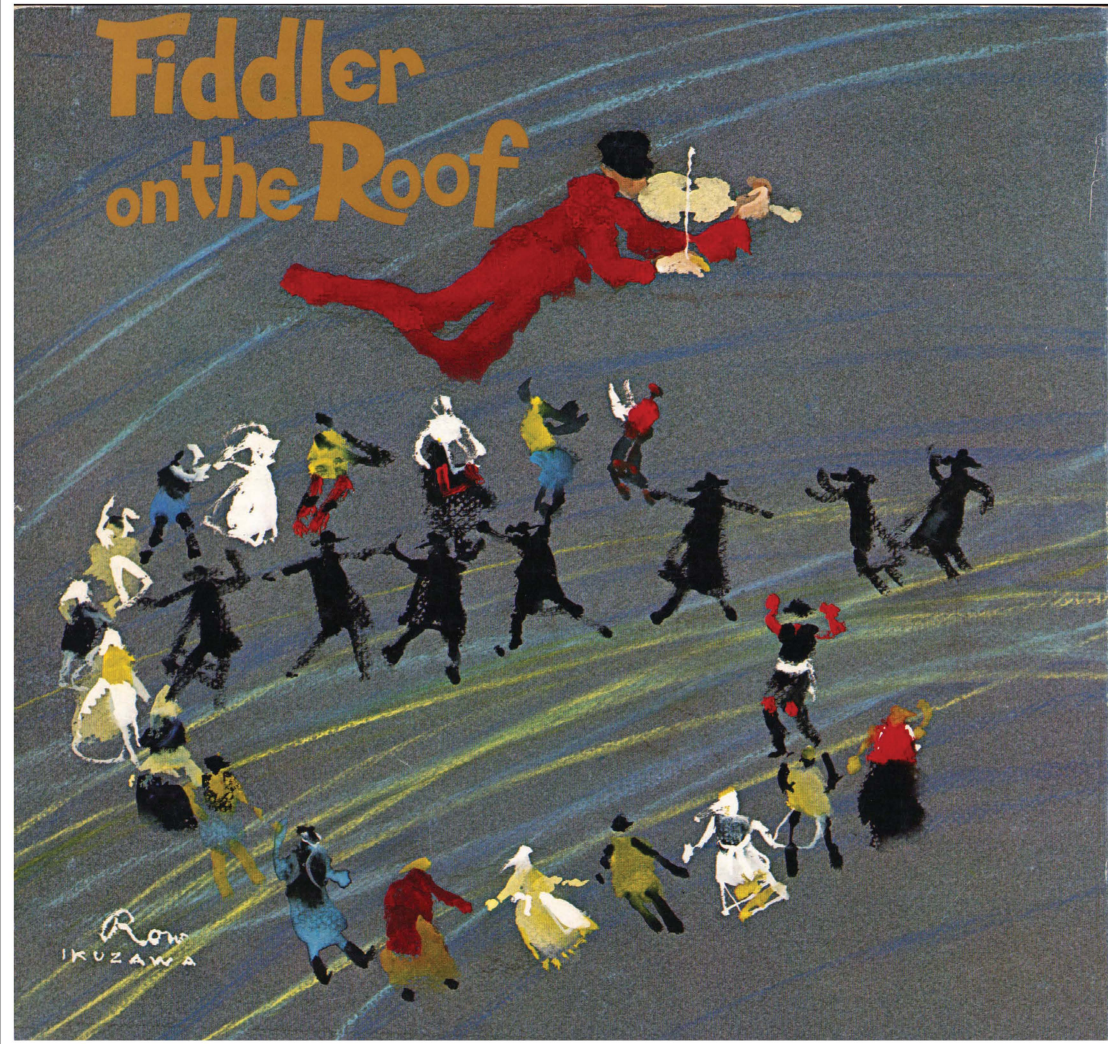
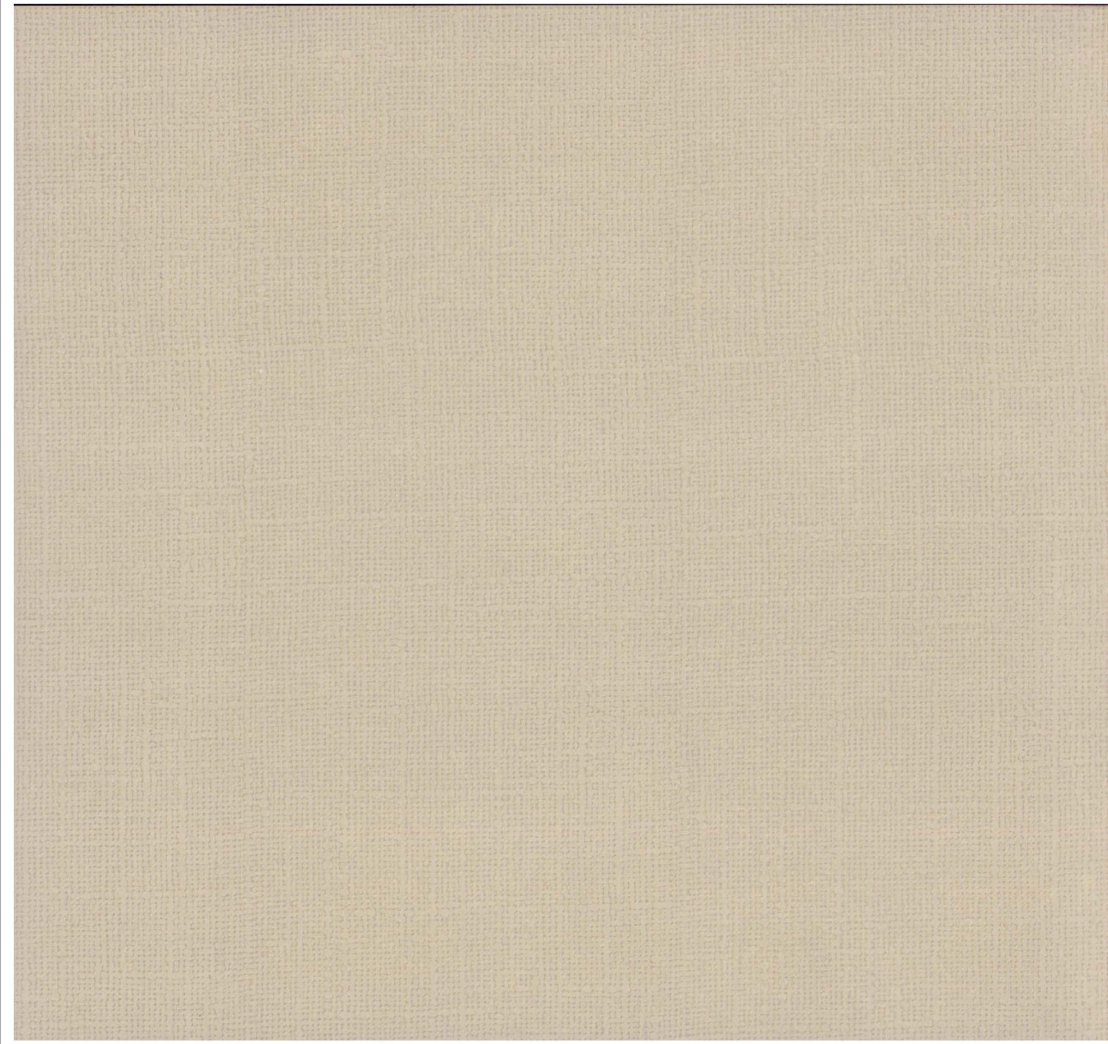
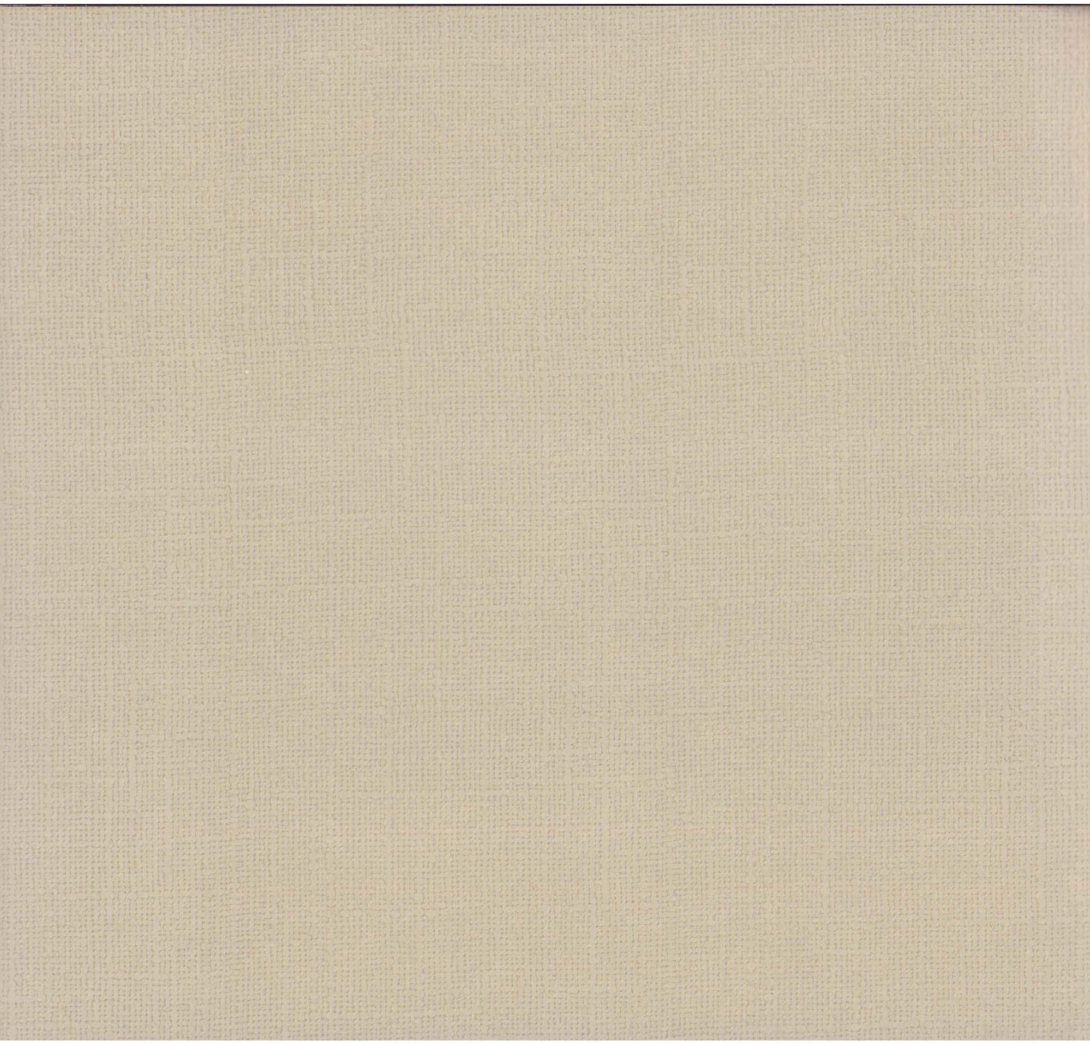


中日劇場  
CHUNICHI THEATER

# Fiddler on the Roof









中日劇場開場15周年記念  
東宝ミュージカル特別公演

# 屋根の上のヴァイオリン弾き

ショラム・アレイハムの小説による

(2巻18場)

ジョセフ・スタイン＝台本  
ジェリー・ボック＝音楽  
シェルドン・ハニッカー＝作詞  
オリジナルプロダクション演出・振付＝ジェローム・ロビンス  
サミー・ベイス＝日本再演の演出・振付  
製作＝佐藤 勉・永野 誠・古川 清

TOHO CO., Presents  
**FIDDLER ON THE ROOF**

BASED ON SHOLOM ALEICHEM'S STORIES

Book by **JOSEPH STEIN**  
Music by **JERRY BOCK**  
Lyrics by **SHELDON HARNICK**

Original New York  
Production Directed  
and Choreographed by  
**JEROME ROBBINS**  
Choreographer & Director  
(Japanese Production)  
**SAMMY BAYES**

Presented on the  
New York Stage by  
HAROLD PRINCE

By Special Permission of  
ARNOLD PERL

1981.6.2 ⇒ 27

**中日劇場**

CHUNICHI THEATRE



# りんごのり

中日新聞社社長  
加藤 巳一郎

中日劇場は、ことし十五周年を迎えました。その記念公演として、名作ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」を上演できますことは、まことにうれしく存じます。公演の実現に、深いご理解とご尽力をいただきました東宝ならびに森繁久彌さんを始めとする出演者、スタッフ、それに本日ご来場の皆さま方に厚く御礼申し上げます。

中日劇場は、昭和四十一年五月、名古屋市の中心地、栄にできました中日ビル内に開場いたしました。新聞社が直営する全国唯一の劇場として各方面から注目を集めつつ、地域文化の向上に着々と成果をあげてまいりました。これも、ひとえにファンの皆さまや関係者の変らぬご支援のおかげと、深く感謝いたしております。

この十五年間、中日劇場は多目的劇場という方針にそい、古典から近代まで、あらゆる分野の演劇をとりあげてまいりました。なかでも、ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」の公演は特筆すべきものです。五十一年、五十二年につづき、今回は二度目の公演ですが、前二回を上回る大きな成果が期待されます。

またこのたびは、私ども中日新聞北陸本社と石川テレビなどの手によって、七月末に金沢公演をもつことができますのも大きな喜びでございます。

このミュージカルは公演回数も五百回に近く、名声いよいよ高まって、日本演劇史上、最高傑作といわれております。森繁さんのうちたてた金字塔は、永遠に輝くことと信じます。

名優ありて名作あり。森繁さんあつての「屋根の上のヴァイオリン弾き」です。このうえとも、ますますご健在で、一回でも多くの公演をもたれ、一人でも多くの人に、温かく、熱い感動を与えてくださることを念じてやみません。

# りんごのり

東宝株式会社社長  
松岡 功

本日はようこそご来場いただきまして厚く御礼申し上げます。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」――、この妙なる、けれども魅惑的な表題をもつミュージカルこそ、一九六四年九月二十二日、ニューヨークはインベリアル劇場で幕を開け、ブロードウェイの最長続演記録をうちたてて以来、世界各国で上演された名舞台中の名舞台でございます。東宝ではいち早く、昭和四十二年九月、新装間もない帝劇で日本初演の幕をあけたわけでございます。そして全国津々浦々の皆さま方の力強いご支援をいただき、北は北海道から南は沖縄まで、文字通り全国縦断公演を達成し、皆さまご承知のように昨年の東京帝国劇場の大ヒットで四五六回上演という驚くべき記録をつくりました。

このたびは再び強いご希望によって、六月の中日劇場をかきり、七月には札幌、仙台、新潟、柏崎、金沢の各地で公演をいたすことになりました。

この公演中、仙台においてミュージカル史上はじめての五〇〇回ロングランの記録が樹立されることになります。これも皆さまのおかげと厚く御礼申し上げます。

森繁久彌さんのテウイエは、今や日本の、というよりは世界のテウイエと申しても過言ではありません。

本日は、ゴールデンアロー賞、毎日芸術大賞、紀伊国屋演劇賞、菊田一夫演劇大賞、芸術選奨文部大臣賞などに輝く森繁久彌さんの名演技を、心ゆくまでご覧下さいますようお願い申し上げます。



ごあいさつ

森繁久彌

回を重ねて三回。

中日劇場に、お客は又かと思われるだろうが、*「屋根の上のヴァイオリン弾き」*の公演です。

いいものは、どこまでも続けなさい。名古屋の人口から見て、まだほんの一部の方しか見てもらっていませんから——と。これは劇場側のいい分だが、勿論それも充分わかる。

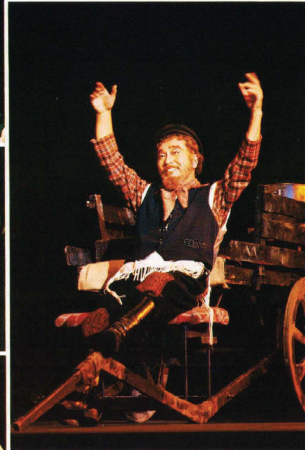
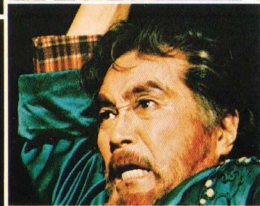
ただ、私たちが、この作品に飽きたかというところ、それはとてもない話で、この公演の為に、又、四十日間の稽古をして身体をきたえて、新しい発見をする。そして、ますます活力を湧きたたせ、御当地に乗り込んできたつもりだ。

ただ、残念なことには、私も年を重ねる。これには勝てない。いよいよこの重労働は限界を超えるものだ。

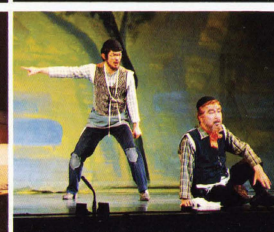
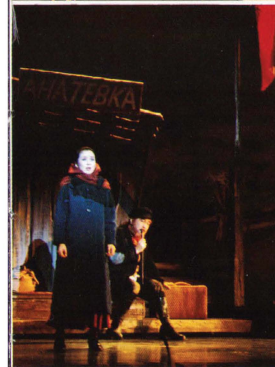
これこそ、私の人生への挑戦でもあると考えて、精進をして、皆様の前にまみえる決心です。















"FIDDLER ON THE ROOF"

"FIDDLER ON THE ROOF" has been acclaimed one of the great musicals of American Theatre. The work of the creative staff spanned a five year period prior to opening at the Imperial Theatre in New York. As a member of the original cast, I had the opportunity of being involved with part of that creative period. There was six weeks rehearsal followed by 16 weeks out of town 15 weeks in Detroit and 4 weeks in Washington D.C. The show that opened in Detroit was quite different than the final version which opened in New York City after weeks later. The reason for doing a show "on the road" is to test public reaction and to find where the weak points lie in the production. This is where the rehearsal work begins, for the creative staff, cast, and production staff.

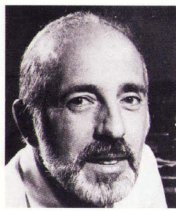
In Detroit, and also Washington D.C. we did 16 performances a week. Six evening shows and two matinees. On days with only evening shows we rehearsed five hours a day, and on days with two performances we started two hours a day. It was rehearsal day a whole musical number or scene could be changed and put in the same night. This schedule went on until opening in New York. The material that went in to make and seemed to be enough to create a whole second version of "Fiddler". Robbins had many different versions of the show, and every night we seemed to play a different one. This made for a very exciting creative period. During this period the show seemed to be leading the "New York" by leg exciting production numbers. There was never worry of being enough material. What was "Fiddler" the success it is to this day all of the for it, anything not necessary in the preparation of the story, and we clearly the musical experience. One must keep in mind that for every audience to be an acceptable and respectable identity.

## 「屋根の上のヴァイオリン弾き」

サミー・ペイス

「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、米国演劇の大作ミュージカルの一つとして略奪を浴びた。制作スタッフの仕事は、ニューヨークのインベリアル劇場で初日をあける以前に、五年にもわたってなされた。初演のときの配役の一員として、私はその創作期の一部にかかわり合う機会を得た。六週間のけいこの後、九週間も「ロード」(地方公演)に出た(デトロイトで五週間、ワシントンD・Cで四週間)。デトロイトで開演した舞台は、それから九週間後にニューヨーク市で開演した最終的なものと全く異っていた。だしもの「ロード」に持って行く理由は、大衆の反応を試すのと、作品中の弱点がどこにあるかを発見するためである。このときから、制作スタッフ、出演者、製作スタッフにとって骨の折れる仕事が始まるのだ。

デトロイト及びワシントンD・Cでは一週に八回公演だった。夜の公演六回とマチネーが二回。一日二回のときは二時間開けをした。一日のけいこの中に、ミュージカル・ナンバー又はシーン全体が変更されて、その変更したものをその夜上演することもあった。このスケジュールはニューヨークで初日をあけるまで続いた。入れたり出したりした材料は、もう一つの「屋根の上の」——をもう十分に準備に思われた。ロビンズ氏はこのだしものに多くの異った見解を持っておられて、毎夜異っただしものを上演しているように思われたらいい。このことは創作期間を大に刺激した。この期間中、このショーは大きな、興奮するようなプロダクション・ナンバーでつなぎ目がふくれ上っているように思われた。だから、材料不足という心配は全く無かった。「屋根の上の」——をこれほど成功させるのは、全ての脂肪——すなわち物語の進行に不必要なものは何でも——が最後には取り去られたことにある。このように、このショーは最も簡潔で正当な方向に向ってしめくられる。私流の考えでは、これこそが「屋根の上のヴァイオリン弾き」を演劇界の輝ける作品にし、今日もお解き続けるようにしたエッセンスなのだ。(この稿は昭和五十年、日生劇場公演の際に寄せられたものです)



## 「屋根の上のヴァイオリン弾き」

日本公演に際して  
ジェローム・ロビンズ

「屋根の上のヴァイオリン弾き」の物語は変遷の歴史である。それは歴史的、経済的、政治的事象の、激しい現実を押しまくられる村と、その村人たちに関する物語で、これらの一つ一つの出来事は、村のあらゆる厳格な伝統を蹂躪し、村人たちの生き方を変えていった。

このジョセフ・スタインによる古本は、ショラム・アレイハムの原作に基づいたものである。アレイハムは、ロシアにあるユダヤ人村の生活を、個人的な感情を入れず、大きな愛情と批判的な目で記録した。ジェリー・ボック作曲の音楽は、ロシアの人種的な民謡メロディー風と19世紀から20世紀にかかる頃、そこに住んでいたユダヤ人の人たちの風俗から生まれたものである。シェルドン・ハーニック作の歌詞も同様に、これらのニュアンスや、韻律、そして当時の民族の表現を加味したものである。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」に使われたこの物語は酪農家テヴィエの苦難……即ち、彼が生まれた世界の伝統と、彼の生命及び家族を脅かす社会的出来事や、変動との葛藤に平和をもたらそうとする努力に、まををばっている。「屋根の上のヴァイオリン弾き」を製作するに当り、彼の家族と彼の信仰とをしかり握りしめておきたいという、雄大なテヴィエの奮闘の中に、観客は、外国文化間の相違に立派な架け橋を渡すことが出来、また、変遷の普遍的な経験をつぶさに見ることが出来ると私は信じている。観客の一人一人が、この事を直ちに、また十分に待つて頂けることを希望する。

また、われわれは失われた時代と儀式を記録にとどめ、そして祝おうとすることが必要であると思う。なぜなら、深く根ざした儀式的伝統と習慣が、他の国々に現存する後代の生活の中に浸透したとしても、彼らの村や、人々は、住んで来た地球から消えて行ってしまふからである。(この稿は昭和四十二年、帝劇初演に際し寄せられたものです)

August 15, 1962

STATEMENT from JEROME ROBBINS

The story of FIDDLER ON THE ROOF is the story of change. It concerns a village and its people which are assailed by the cultural forces of historical, economical and political events, all of which devastate the village's rigid traditions and alters their way of life.

The book, by Joseph Stein, is based on some of the stories of Sholem Aleichem, who chronicled the life of the Jewish ghetto village in Russia without sentiment but with enormous love and critical clarity. The music, by Jerry Block, rises from the folk of ethnic folk melodies of Russia and the Jewish people located there at the turn of the century. The lyrics, by Sheldon Harnick, breathe life through the music and captures and folk expression of the spirit of the time.

The particular stories selected for FIDDLER ON THE ROOF center on the struggle of the characters, Tevye, to make peace between the life, struggles and traditions that he has been told, and the events, circumstances and changes that affect his life and family. In creating FIDDLER ON THE ROOF all of us believe that in the silent cry of Tevye to hold his family and beliefs together, one can see the bridge between the differences between foreign culture and our own the universal experience. One must keep in mind that for every audience to be an acceptable and respectable identity.

We also felt it necessary to try to record and celebrate the times and rituals that were lost. For even though the traditions and customs of the days passed rituals have altered their way into the hands of succeeding generations now existing in other countries, the original village and its people have disappeared from the very earth they lived on.

演奏 東宝オーケストラ

指揮

大谷 義一

【主な出演者と配役】 順不同  
テヴィエ デイユエ  
ゴリデル(その妻) 倉橋和子  
ツァイテル(長女) 若谷健  
ホーデル(次女) 滝谷和子  
チヤウ(三女) 弘太郎  
シュプリンツ(四女) 弘太郎  
イレク(五女) 弘太郎  
イレク(仲人婆さん) 弘太郎  
モリテル・カムゾイル(住吉屋) 弘太郎  
シャンデル(その母) 弘太郎  
パリチック(学生) 弘太郎  
ラザール・ウォルフ(肉屋) 弘太郎  
フルマセラ(肉屋の先妻) 弘太郎  
ツァイテル婆さん(ゴリデルの祖母) 弘太郎  
モルチャ(酒場の主人) 弘太郎  
ラビ(司祭) 弘太郎  
メンデル(その息子) 弘太郎  
アラム(本屋) 弘太郎  
ナフム(食家) 弘太郎  
ユルム(帽子屋) 弘太郎  
巡査部長 弘太郎  
フョードカ(ロシアの青年) 弘太郎  
ウーイヤー(その友人) 弘太郎  
ヴァイオリン弾き 弘太郎

# 屋根の上のヴァイオリン弾き

2巻劇場



## □かいせつ

ブロードウェイで八年間のロングランを記録し、世界各地で三〇〇〇万観客を動員し、日本でも公演回数五〇〇回を超えようとしているミュージカル「屋根の上の」についていまだに解説など無意味と思うが、観客各位の鑑賞の手引きの一助にも、この作品の沿革の若干なものを、ざっと書いてみる。

### (一) 原作、脚本のこと

原作者ジョー・アレイ・ヘム、筆名。「あなただけを」という意味だという)はロシアのウクライナの貧しい村のユダヤ人として生まれた。祖国なき流浪の民の一員として、ヨーロッパやアメリカの各地を流浪し、その間にドイツ語のチェホフが呼ばれた独特の作風でいくつかの短編、戯曲を書いた。「屋根の上の」の原作となった「牛乳屋デヴィ」(「テヴィエ」の娘たち)はその中の一節。「屋根の上の」の装置家であるボリス・アロソンの名でアロソンのこの作品の装置の上で多大の影響を受けた現代ユダヤの最高画家シャガールも、演出・振作者のジェローム・ロビンソンも、おなじように東欧からの亡命者で人仲である。

脚本のジョセフ・スタインは、現在のような形の「屋根の上の」にたどりつくまでに、「デヴィエ」あるいは「デヴィエと村人達」というような題名で、いくつか未定稿を書いた。日本とちがって、ブロードウェイの劇作家は多くの場合、作曲家や振作者・演出者の協同作業の中で決定稿を作成させて行く。ブロードウェイの輪になって踊る場であり、「もしも金持ちなら」とデヴィエが歌う場面は、この作品の製作が決定された一九六二年以降のことである。

このプログラムにも掲載されているロビンソンの短いコメントでも明らかにように、様式はユダヤの民族的色彩が濃く、内容には世代的愛護と社会的差別という、人間のことで普遍的なテーマに貫かれていて、このミュージカルが世界的反響を呼んだゆえんだらう。

## □あらすじ

アナテフカ——ロシアの、忘れられたような一寒村に、一九〇五年、帝政の頃、ユダヤ人が平和に暮らしていた。

貧しいけれど楽天安んたテヴィエ、二十五年つれそっている妻のゴールドと五人の娘たち、おしゃべりでせっかいて結婚仲介が生きがいのイェンテ、気が強い意志が強く、仕立屋なのに貧乏でミシンも買えないモートル、金持で野心家の肉屋のラザール、皇帝様がいつまでもアナテフカを憶えていくれますように祈っている少し恍惚の司祭様……。みんな善良な、ただのユダヤ人たちが平穏無事な暮らしを営んでいた。なぜ彼らはこのアナテフカ村から出ていこうとしないのか？ 平和に暮らしているけれど、それは決して楽なことじゃない。

今日もテヴィエは荷馬車を引ながら神様とお話する。(これが彼の癖でもあり楽しみでもある)

「そう、このアナテフカ村では、わしらはみんな、屋根の上のヴァイオリン弾きみたいなものだ。首の骨を折らないように、愉快で素朴な調べを吹き鳴らす」としている。これはそんなに楽なことじゃないんですよ。

じゃ、なぜ、そんな危険をおかしてそこにいるかとおっしゃるんですか？ わしががん張っているのは、このアナテフカが生まれ故郷だからですよ。どうやってバランスを保っているかって？ それは、まあ一口でいえば「伝統、しきたりってやつですよ」。

テヴィエのい通り、昔ながらの伝統が、人々の生活の基盤だった。父親は父親の役目を果たし、母親は母親の、娘は娘の、息子は息子の役目を果たす。

娘の結婚は仲介役のイェンテおばさまが一手に引き受け、母親たちもイェンテにまかせる——これがしきたりだ。

ある日、テヴィエの長女ヴァイタルにイェンテおばさまが結婚話を持って来た。相手は金持ちの肉屋ラザールだという。テヴィエもゴールドは大喜びで話をきめてしまう。だがヴァイタルは仕立屋のモートルと相思相愛。

## □オリジナル・プロダクションのこと

この作品は、「カムパニー」「キャバレー」「フォリイズ」「リトル・ナイ・ミュージック」等数々の名作を放ったハロルド・プリンス製の下で公開されたが、この作品の芸術的の中になって製作、公演を推進したのは、やはりジェローム・ロビンソンであったと思われ。

「屋根の上の」という題名は、シャガールの同名絵の題からとってつけられたのだが、このミュージカルの評家大平和氏によれば、これはネロの大聖殿が行われる時、それを尻目にひとり屋根の上でヴァイオリンを弾く男がいたという故事にもとづくといふ。赤い無尾服を着て、顔を画面のよに白く塗った劇中のフィードル・ヴァイオリン弾き)は、いってみればロシアの寒村アナテフカの社会的差別(有史以来、差別のない社会を生きた人間はいない)の中の内なる比喩的魂の表現である。デヴィエ自身の生き残りの表現といえるだろう。ともあれこの作品は、当時のグラマラスな、いわゆるブロードウェイ・ミュージカルの中で珍しく、貧しい庶民の日常的な生活感情を通して社会の真実を描き観客の胸を打ったのである。トワイ・アウトは新聞ストの最中のデイトで行われ、成功とは言えなかったが、ブロードウェイに引越すたまたまヒットしなかったの費を愛賞した。初演の主演は著名エンターティナーのゼロ・モステルで、やがてそれはボルにひきかえ、ボリスは第一回目の日本公演にも顔をみせ、森繁久彌氏と舞台の七回握手をかわした。

装置と演出のミザンシームは、すべて円(椅子)が基本になっていて、いわばそれは、アナテフカの寒村に住む人々のコミュニティ・人間間の基本的連帯感の感情的表現である。ロビンソンの演出意図がどこにあるか、おのずから明らかである。

### (二) 日本語版の上演のこと

翻訳劇を上演する場合、陥りやすい錯覚のひとつは、翻訳された台詞(ヘリ)が、日本語であるという錯覚である。厳密な意味では、それは日本語ではない。日本語で書かれた外、

「何たることだ！ しきたりを破ろうというのか」と一時は怒ったデヴィエだが、愛する娘の幸せを思い、モートルとの結婚を認めてやる。先にきめてしまった肉屋のラザールの話をこ破算するのには大感動をやらかすが、なんとか成功する。

だがその頃からロシア人の迫害が段々ひどくなってくる。ヴァイタルとモートルの結婚式の夜を境に、アナテフカから立ち退けと、いふやがせは、ロシア人たちの暴力行使にまでエスカレートしてくる。

デヴィエは娘たちにも覚悟が起きてくる。次女のホーデルは、革命家の学生ハリー・ツァクの後を追ひ、流刑地シベリアへ……。三女のチャツァはロシア人のフォードカと恋をししてしまう。これはデヴィエはどうしても許せないことだった。

「神様、認めますか、二人を？ 信ずることすべてを否定してもいいのではありませんか？ だが、どうしてわたしの信仰、わたしの民族をそむくことができませんよう？」

チャツァはかけ落ちした。デヴィエは、チャツァは死んだのだと自分に言いしかけるのだった。

それから間もなく、ロシアの巡査部長から立てのユダヤ人は三日以内にアナテフカから立ちのけと命令される。背けは軍隊が乗り込むというのだ。

テヴィエもゴールドも、イェンテもラザールも、すべての村人が、故郷アナテフカをどんなに愛していたか……どれだけ想い出が残されるのか——我々の生命だったアナテフカ、断腸の想いで、人々は家をあとに、持てる限りの荷物を持って村から去って行く。

わりばりに、散って行く。

テヴィエ一家の荷車の後から、屋根の上にいるヴァイオリン弾きが、トボボとついてゆく。ヴァイオリンの素朴な調べに、ひとびとの離散の悲しみをのせて……

国々なのである。しかし、ポーランドの著名女優パリのザロンでポーランド語の詩を朗読し、それをきいて感動した客の一人があれは何という詩で書かれたと、彼女が私はポーランド語のアルファベットを朗読しました、と答えたという演劇史上有名なエピソードをみても分る通り、おろかに語られた母国語、言葉の厳密な意味で断片的に語られた他国語の方がはるかに分りやすいということもまた、逆説の真実である。

だから「屋根の上の」(日本人俳優連は、翻訳文字句をいじくりまわたり、ロビンソンの原案したミザンシームを恣意的に変更しなかった。そんなことが問題ではなかった。彼等はひとまず日本語で書かれた外国語、日本語で書かれた日本語以上に観客の胸を打つという、役に沈没した、それが翻訳劇を上演する最もソッドラスな方法であり、翻訳の上演が創作的成果につながるの唯の方法であることを、長い公演期間を通じて体得したのである。

### △

全国の各地で、あらゆる階級の観客に受け入れられ、ほとんど翻訳劇界ののこしていないところ、「屋根の上の」の日本語版の最大の成果といえる。

なお、この作品の長期上演を推進した原動力として、主演の森繁久彌氏の熱意と精進は、どんなに力説してもしすぎるというところはない。ゼロ・モステルの例をみても分る通り、この作品の主役はどちらかというとエンターティナーの素質のある俳優がえられるのだが、しかし、この作品を成功させるのはその素質ではなく、むしろそれをかなぐり捨てた、ゆたかな文藝的感性に裏づけされた真の俳優の資質であることがこの公演で確実に裏証したのである。

(S)







テヴィエ  
ゴールデ  
次女 ホーデル  
三女 チャヴァ  
四女 シュプリンツェ  
五女 ビルケ  
モーターの母  
司 祭  
その息子 メンデル  
肉屋 ラザール・ウオルフ  
居酒屋の亭主 モーデル  
仲人婆さん イエンテ  
乞食 ナナム  
本屋 アヴラム  
パン屋 ユツク  
学生 パーチャク  
村人たち

森 繁 久 頼  
安 奈 かおる  
松 岡 由 利 子  
和 泉 純 ち ぬ  
林 橋 喜 郎 子  
高 益 上 直 也  
三 益 上 恒 産  
上 田 直 子  
田 中 明 子  
賀 中 堂 司  
山 原 夏 子  
宮 中 磨 子  
井 部 孝 磨 子  
服 部 孝 磨 子  
今 村 堅 雄 子  
佐々木 襄 子  
石 見 榮 子  
藤 原 雄 子  
真 間 茂 樹  
菊 火 清 二  
永 恵 在 研  
今 山 義 芳  
山 岡 義 樹  
岩 崎 友 秀  
中 嶋 英 夫  
叶 口 央 夫  
野 口 あ 崎  
関 田 郁 郎  
小 原 孝 三 郎  
幸 仲 孝 三 郎  
荒 井 典 果  
福 田 沈 子  
平 田 恵 子  
宮 林 雅 子  
水 谷 敦 子  
井 口 美 奈 子

ヴァイオリン弾き  
ビンの踊り  
他 村人たち大ぜい

第二幕

プロローグ

テヴィエ  
第一場 テヴィエの家とその

次女 ホーデル  
学生 パーチャク  
テヴィエ  
ゴールデ

第二場 村の通り

司 祭  
魚 売 り  
仲人婆さん  
長女 ツァイトル  
モーデル  
乞食 ナナム  
パン屋 ユツク  
メンデル  
ユツセル  
本屋 アヴラム  
モーターの母 シャンデル  
村の女 リフカ  
村の女 ジーマ  
他 村人たち

第三場 鉄道の駅とその朝

次女 ホーデル  
テヴィエ

坂 間 清 道 二  
山 研 火 助  
宇 賀 茂 樹  
関 見 郎 子  
石 村 堅 郎  
須 賀 不 男  
今 村 堅 郎  
宇 田 馬  
石 見 榮 子  
服 部 孝 磨 子  
山 岡 義 樹  
高 橋 明 夫  
安 田 仲 子  
高 橋 明 夫  
宮 上 喜 郎  
三 益 上 恒 産  
益 田 喜 磨 子  
山 中 明 子  
音 無 美 紀 子  
賀 原 夏 子  
今 村 堅 郎  
益 田 喜 磨 子  
平 田 沈 子  
荒 井 典 果  
富 田 恵 子  
高 橋 明 夫  
宮 上 喜 郎  
安 田 仲 子  
服 部 孝 磨 子  
山 岡 義 樹  
石 見 榮 子  
須 賀 不 男  
今 村 堅 郎  
宇 田 馬  
森 繁 久 頼  
安 奈 かおる  
森 繁 久 頼

第四場 村の通り(数ヵ月後)

本屋 アヴラム  
パン屋 ユツク  
モーデル  
司 祭  
その息子 メンデル  
モーターの母 シャンデル  
他 村人たち

第五場 仕立屋モーテルの店

仕立屋 モーテル  
長女 ツァイトル  
テヴィエ  
ゴールデ  
三女 チャヴァ  
四女 シュプリンツェ  
五女 ビルケ  
モーデル  
モーターの母 シャンデル  
司 祭  
その息子 メンデル  
ロシアの青年 フォードカ  
他 村人たち

第六場 道路(午後)


テヴィエ  
ゴールデ  
長女 ツァイトル  
次女 ホーデル  
三女 チャヴァ  
モーデル  
フォードカ  
司 祭  
モーター  
ヴァイオリン弾き  
他 村人たち

第七場 テヴィエの納屋

仲人婆さん イエンテ  
少年  
四女 シュプリンツェ  
五女 ビルケ


宮 藤 千 代 志  
服 部 恭 一 郎  
高 橋 喜 磨 子  
三 益 上 直 也  
益 田 喜 磨 子  
高 橋 明 夫  
田 中 純 子  
林 橋 喜 郎 子  
高 益 上 恒 産  
益 田 直 子  
三 益 上 明 夫  
坂 上 道 助  
賀 原 夏 子  
守 田 子  
高 仲 子  
林 泉 純 子





# 清 じふもきの夢

名古屋・栄・中日ビルタウン2階南東 ☎261-1111内線366 ■本店 名古屋市中区丸の内2丁目6-7 ☎231-2710



炭焼ステーキ  
味乃へき  
今池店 ☎731-0407  
(駐車場完備)

星ヶ丘店 ☎782-4068  
金山店 ☎681-3988

レストラン鹿島 長野・岡谷店  
(02662)  
2-6384





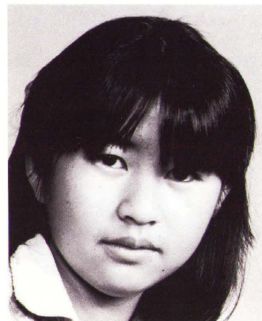
四女シュプリンツェ・和泉 ちぬ  
Shprintze • CHINU IZUMI



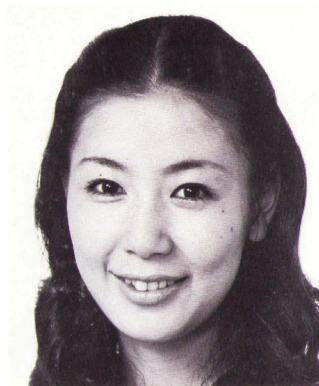
三女チャヴァ・松岡 由利子  
Chava • YURIKO MATSUOKA



次女ホーデル・安 奈 淳  
Hodel • JUN ANNA



五女ビルケ・林 純子  
Bielke • JUNKO HAYASHI



長女ツァイトル・音無 美紀子  
Tzeitel • MIKIKO OTONASHI



その妻ゴールド・淀 かおる  
Golde • KAORU YODO



デヴィエ・森 繁 久彌  
Tevye • HISAYA MORISHIGE







フルマセーラ・荒井 洗子  
Fruma Sarah・KOKO ARAI



ツァイトル婆さん・富田 恵子  
Grandma Tzeitel・KEIKO TOMITA



仲人婆さんイエンテ・賀原 夏子  
Yente・NATSUKO KAHARA



学生・パーチック・井上 孝雄  
Perchik・TAKAO INOUE



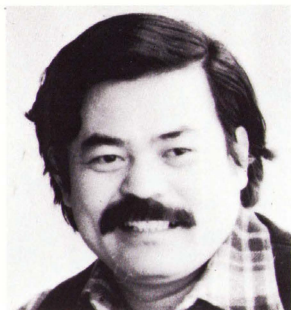
モールチャ・田中 明夫  
Mordcha・AKIO TANAKA



肉屋ラザール・ウォルフ・上 條 恒彦  
Lazar Wolf・TSUNEHIKO KAMIJO







乞食ナフム・山中堂 司



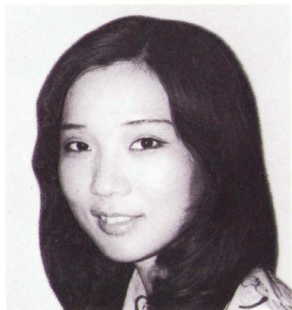
今村 堅 洸



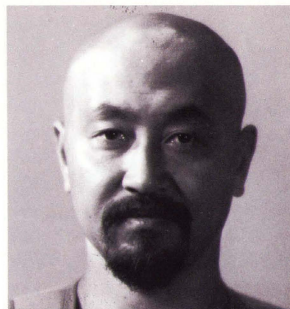
ロシア人(テナーソロ)・藤原 章 雄



石見 榮 英



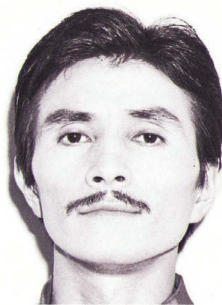
幸木 三 果



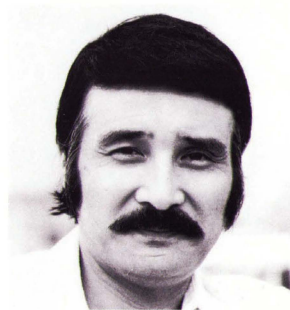
木屋アブラム・宮 琢 磨



モーテルの母シャンデル・高橋 郁 子



ヴァイオリン弾き・坂上 道之助



佐々木 義



福田 裕 子

手打そば 精進料理

# 安江

本店・瑞穂区松栄町2-99 ☎832-4028  
〈市大葉学部前低号東入ル〉

日本の味... 味屋 重よし

中目劇場入口 ☎241-4955

●本 店 / 中区栄四 ☎241 2353  
●総 店 / 中区錦三・ワンダフルビル ☎361 8645  
●星・丘店 / 千種区田代町 ☎781 6151  
●松坂屋店 / 中区松坂屋本店

茶箱弁当 釜めし弁当

開業前に……昼間に……お帰りにお立寄りくださいませ。(ご予約くださいとお席をお取らせておきます)





平田 照子



若林 敦子



宮田 雅代



水谷 ミチル



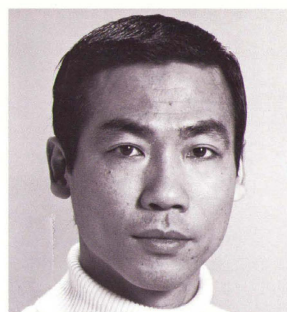
井口 美奈子

注目の的  
シーボン化粧品

  
株式会社 中京シーボン  
名古屋市中区富土見町17-11  
加藤ビル4F (052) 331-0911



菊間 清二



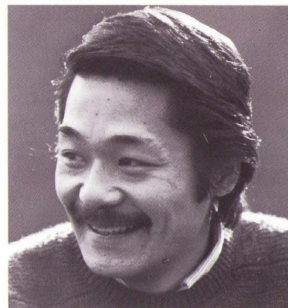
真島 茂樹



服部 恭一郎



叶 年央

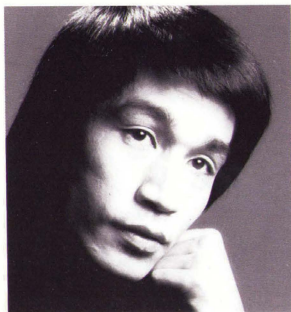


中嶋 英夫

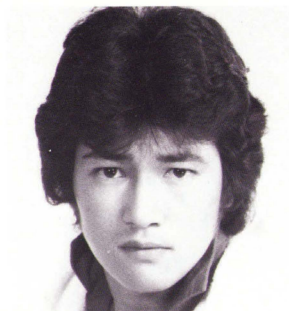
行楽に  
おみやげに... **金城あられ**

合資会社 金城あられ本舗 名古屋市中区広路町石坂37の5  
電話(051) 0437・1953 部  
中日タウンB1(銘菓コーナー)直売店・有名食品店にてお求め下さい





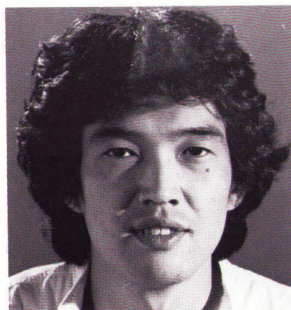
宇田 郁馬



岩崎 友秀



野口 あさら



小原 孝士



関 輝男



永恵 春芳



今岡 義晴



山火 研



高仲 典子



守田 伸子

＊中日劇場入口“のれん茶屋”ごあんない＊

喫茶  
軽食

朝ピュフェ

寿司  
うなぎ

すし龍

和食  
洋食

樂坐

当のれん茶屋は劇場に出演の芸能人・中日ドラゴンズの選手・文化センター講師の方々にも好評いただいておりますノ間幕前に…幕間に…お帰りにお立ち寄りください

呉服 市松 小松也な  
電話 (951) 5298 番





司祭・益田 喜頼  
Rabbi・KIYON MASUDA



巡査部長・須賀 不二男  
Constable・FUJIO SUGA



帽子屋ユッセル・安田 伸  
Yussel・SHIN YASUDA



ロシアの青年フォードカ・谷岡 弘規  
Fyedka・HIRONORI TANIOKA



住立屋のモートル・富松 千代志  
Motel・CHIYOSHI TOMIMATSU



司祭の息子メンデル・三上 直也  
Mendel・NAOYA MIKAMI





# 「屋根の上のヴァイオリン弾き」について

倉橋 健



「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、ロシア系のユダヤ人作家ショム・アレイクムの一連の小説「孔売りのデヴィエ」。「デヴィエの娘たち」等を原作にしたものである。ショム・アレイクム（ヘンリク・アレイヘム）は、ロシア・アレイクム・アレイハなどとも発音されている）は、一八五九年にウクライナに生まれ、一八八三年から作家活動にはいった。一九〇五年、この作品であつたといふようなボダラム（ユダヤ人迫害）にあい、家族と共にロシアを去り、スイスをへてアメリカに渡り、一九一六年にコペンハーゲンで死んだ。本名はシロム・ノフモヴィチ・フビノヴィチといひ、デヴィエのような貧しい庶民の生活をユモアとトリイズムをもつて描いた小説が多く、ゴリキもこれを「憂鬱にみちた心をつ」作品として評論している。

こういう作品が原作であるからには、「屋根の上」は、ミュージカルとしては異色作である。これまでも、「オクラホマ」のように、農民の生活をあつたミュージカルがなないわけではないが、「オクラホマ」では物語の展開や衣裳、装置等にミュージカルの的ななやかなよそおいがこられていた。したがって「屋根の上」では、男はみんなゲレをばし、女たちは粗末な農民の服装をしてゐる。どの点から見ても、ミュージカルの的ななやさはない。しかもストリーは帝政時代のロシアにおけるユダヤ人への迫害を

題材にした暗いものである。ニューヨークは、よく元話にジョー・ヨークと呼ばれるほど、ユダヤ人多いところである。しかしアメリカで生まれてアメリカに育ったユダヤ人たちの多くにとつては、半世紀以上も前に自分たちの父祖もつていた風俗や習慣や宗教観や物の考え方は、もはや身近なものではありえない。そういういろいろな条件を考慮して、アメリカの文壇誌「ヴァイアティ」は、「屋根の上」のニューヨーク初演に先立つ地方公演のうちに、「この作品は大ヒットにはなりえない。うまくいって中程度の成功である」と予測した。ところが一九四四年九月二十二日にブロードウェイのインペリアル劇場でふたをあげると、予想に反して、空前のヒットになり、八年間三三四回のロング・ランを記録した。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」は、当然のことながら、数多くの賞をうけた。作品として、一九四四・四五年年度のニューヨーク劇評家賞トニー賞の最優秀ミュージカルにえられ、またトニー賞のミュージカル部門でデヴィエを演じたゼロ・モステルが主演賞を、妻のゴールドを演じたマリア・カニエロフが役助演賞を、ハロルド・アリソンが脚本賞を、ジョセフ・スタインが脚本賞を、ジェリー・ボックが作曲賞を、シェルドン・ハーニクが作詞賞を、ジェローム・ロビンズが振付賞をあたえられた。

「屋根の上」は世界の多くの国々でも上演され、好評を博した。イギリス、フランス、スイス、オーストリア、ベルギー、デンマーク、オランダ、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、西ドイツ、東ドイツ、ポーランド、チェコスロバキア、アイスランド、トルコ、イスラエル、オーストリア、ニュージーランド、南アフリカ、南米諸国、日本などである。

オーストリアでは、ベートーベンのおペラ「フィデルオ」が初演された由緒あるテアター・アン・デア・ウィーンで上演され、音楽にはうまいウィーンから熱狂的喝采をあびた。東ドイツは、オペラの演劇場として世界的に有名なワルター・フェルゼンシュタインが、その本拠であるコッラセ・オペラ劇場で上演した。八月月の稽古をかさねて初日をあげたところ、拍手とカチンコルが二十分以上続いたといふ。

一九六七の日本初演については、ニューヨーク・タイムズ紙は、「そのユモアは的確に理解され、しかもべきところにくると大きな帝国劇場は笑いのうすに包まれた」とつた。また、一方所だけ、アメリカではドットと笑いがきて、日本では反応のないところがある。それは大話で、ビルゲとシユプリンエが「汽車にも乗るし船にも乗るよ……」とほしやきまると、これはまだアメリカじやないんだよ」と叱る場面がある。アメリカの子供の野郎達に対する皮肉が逆に受けるわけで、日本でそれが伝わるんではないのかもしれない。ただ、かりにデヴィエ一家がアメリカではなく、日本に亡命すると、これはまだ日本じやないよ」といふせりふが出たとき、それを笑いで受けるセンスがあるかどうか。

ショム・アレイクムはユダヤ文字のマト・ト・エンと呼ばれる。ジョセフ・スタインはこのアレイクムの作品のなかのユモアとペイオス、人物と背景をもとにして新しいミュージカル台本を書いた。たとえば原作のデヴィエは、おとなしい、受け身な男である。受け身な人物は、ドラマの主人公にはむかない。そこでスタインはデヴィエを、ウィットがあり、行動性もある、庶民として

生きる知恵をもった魅力的な人物にしたのである。また原作では、ユダヤ人に対する迫害は前面に出てこない。これを多数民族の少数民族に対する敵意、暴力、差別にとらえ強調し、現代的意味を加えたのも、スタインである。

八年のロング・ランになると、配役も当然途中で変わるが、強く印象に残っているのはゼロ・モステルのデヴィエである。モステルは、ミュージカルばかりではなく、ユメスコの「扉」、ベケットの「ゴッド・待ちながら」でも演技賞を得ている俳優である。彼はアド・リップがうまい役者といわれているが、モステル自身はこれを否定する。そして、あるインタビューのなかでつぎのように語っている。

「私は舞台でアド・リップがうまいといわれ、それはアド・リップとは違う。みなさんは、自発的な自然な行動をアド・リップとまちがえていなるのだ。すぐれたピアニストは、同じモーツァルトのソナタを、演奏するたびごとに、楽譜の限界内で、全面的に再創造しなければならぬ。彼はメトロームではない。俳優にも完全な自由はない。劇中のせりふを自分の気まぐれで変えることはできない。しかし、毎晩自分の役を再創造するにあたっては、毎晩自分の想像力をはたかせなければならない。毎晩自分が真実を語っていると感じることが必要なのだ。」

こういう基本的なきびしい態度から自発的の「八」自然に「う」まれるアド・リップだから、彼のアド・リップは絶妙なのである。こんなエピソードがある。

「屋根の上」に出演中、レールはつてきたら動いては、その家のセツが、バラバラになつて所定の位置におさまらないことがあつた。するとモステルは即座に座席に向かつて呼びかけ、「わたしが家主に家を振舞わないからといって、なにもおごさないことになるにはおぼえまい」と言った。大道員方が一所けんめい、直そうとすると、また直らない。そこで彼はさらに、「ああ拙者、もしあなたが立派な紳士なら、どうぞわたしの家を手伝って直してください」とつけ加えた。そのときまでに大道員はやつと仕事を覚えていた。

(英米文学者)

ご宿泊・ご宴会・ご商談に…………… 便利(名駅前)で気軽な(駐車場有)

料理  
旅館

新 香 取

名駅三丁目26-21(大名古屋  
ビル東奥) ☎(41)0831

お座敷中華料理  
ナゴヤ錦(元富沢町) ☎951-8181

トヨタビル B1  
食堂 飯店 栄店 地下鉄栄駅

コーヒーコーナー丸亀 2F

おみやげ 御進物に…

手づくりの 肉饅頭 シュウマイ

名鉄百貨店地下一階

芳蘭亭



もうひとつの  
日本人とユダヤ人

山崎 正和



一九六四年の秋も深いころ私は二、三人の友人とともに、ブロードウェイのインペリアル劇場へ、おりにかに評判になり始めた、新作のミュージカルを見に行きました。『屋根の上のヴァイオリン弾き』という、詩的で漸新な表題も魅力的でしたが、何といてもゼロ・モステルの主演、ジェローム・ロビンソンの演出、振付という大看板が、私の期待の胸をふくらませていました。

評判期待にたがわず、舞台は開幕の瞬間から、私と友人たちの心を一気に捉えていました。背景いっぱいに、ジャガールの世界をそっくり再現した、ボリス・アロソソンの舞台美術。民謡風の哀調を帯びながら、鋭さと規模の大きさを失わない、ジェリー・ボックの音楽。そして、序幕の合唱隊の振付から、すでにロビンスは、いかにもこの人らしい細部の力動感を盛りあげていました。

物語は、今世紀初頭のロシアの寒村を舞台に、ひとりの貧しいユダヤ農民の家庭が、外側と内側の、ふたつの力によって崩れて行くいきさつを描いたものです。

五人の娘を抱えたテヴィエは、勤勉で信心深い家長として、しっかり者の妻とともに、

伝統的な生活習慣を懸命に守ろうとしてきた。だが、こゝろずで時代の流れは押し寄せていて、最後の娘たちは、つきざねに自由な結婚によって親のもとを去って行きました。心優しい父親は、そのたびに去りたりの板ばさみに耐え、泣き笑いの葛藤のうちに、結婚による突然の急転をうけて入るを得ません。局は、現実変化を受け入れざるを得ないについに三人の娘が立ち去った一家庭は皇太子の突然の令が去った一家庭は皇太子とともに、住みなれた土地を追放されることになりました。家財道具といったものを車に載せ、遠いアメリカへ旅立つ一家の姿が、広い裸の舞台を大きく、ゆっくり廻り始めたところで終幕の音楽がたかまります。

それはたゞ、アメリカのダンヤ人、その風情を描いた芝居であつても、もちろん、その俗の描写は丹念をきかめてゐた。食前のお祈りや、結婚の儀式、歌や踊りからお呪いのしぐさまで、生活の匂いと手触りが克明に再現されてゐます。私の隣に座つたユダヤ人の「女學生などは、私の膝の腕を掴んで、これがかたちの生活なのよ」と、息をはすませて聞いたほどでした。

けれども、この芝居の最大の成功は、それがたんなる写実的な描写を越えて、ほとんど悲劇的ともいふべき、一種の格の大きさを生み出していたことでしょう。

主人公が「老練の農民だ」といふことは、ミコジカールとに珍らしい、結核がひどい流涙に終るといふこと、この種の企鵝舌は前例のない冒険だ、たはずです。それをふくむことに救っていたのが、ジェロム・ロビンスの象徴的な演出であって、それに乗ってグレイスを演じる、ゼロ・モステルの王者の風格でした。二人のおかげで、時代遅れの父親は、一家の誇りあまた統治者となり、土地を失った農民は、高き高き、古代ユダヤ民族の子孫の風貌をおびることになったのです。

とりわけ、印象深かったのは、最終幕の舞台の演出で、車を挽いて、大きく輪を描いて歩くテヴィエの姿は、一瞬、大きく周りを背が高く見えたものです。私には、それは優れた舞台か、歌舞伎の道行の場面に見えたのですが、これはのちになって、たんなる錯覚ではないことがわかりました。当時、ジェローム・ロピンスは能楽に深い感銘を受け、

1

的なイメージは弱められ、その分だけ、人々の機微の写実的な表現に重点が置かれていたようです。難をいえば、とくに後半、密着の

表白に力がいりすぎ、その結果、テンボが落ちて、やや冗長の感を与えたことでしよるしかし、反面、これによって、主人公は日本の広い観客に親しみ深いものとなり、ひいてはミュージカルそのものが、この国の新しい

娯楽になり始めたとなれば、これはむしろ成績に数えるべきことかもしれません。

それにつけても、あのイザヤ・ベンダサン氏の『日本人とユダヤ人』を読んだ人は、このテヴィエ一家の姿に触れて、いささか奇異

の念に打たれることではなかつた。世に於いて、  
界親において、あれほど徹底的に違ふ二つの  
民族が、家族間の人情において、これほど酷  
似しているのを見ると、まったく不思議とい  
うほかはありません。

しい母親像。子供のしつけから、夫婦間の愛情表現にいたるまで、どれをとっても、ここには半世紀前の日本の家庭を見ることが出来ます。家族主義と、その崩壊ということとは、私たちの大きな関心事のひとつですが、少な

くとも、それが日本人だけの問題ではないのだというのを、デヴィエ一家はじつに雄弁に教えてくれたようです。

それにしても、この夜の梅田コマ劇場は、広大な客席に立錫の余地もなく、興奮した観客の熱気や命騒ぎが、こぼれ、溢れた。

客の熱気で汗ばもきかない屋外でした。文通り老若男女、あらゆる職業層の観客が、終幕の音楽とともに、一斉に手拍子を打ち、やがて、「陽は昇り、陽は沈む」の大合唱に加わって行ったのは、私にはひとつの事件のように思われました。

出演者の側で、新劇の質原夏子氏と宝塚の淀かおる氏が、完全に同質の演技を見せたように、ひよっとすると、この公演は観客の側にも、近代の分裂した演劇の趣味を越えて、ひとつの新しい標準語を作り出すのに成功し

陽は昇り、陽は沈む

当然のことながら、森繁久彌氏のテヴィエは、かなり大胆に、日本化された父親像になっていた。民族の予言者、といった象徴

・とうかい味の名店会

事務局・名古屋市中区栄3-11-5 北白川書屋内 ☎(052)263-0678

(三重)

伊勢赤松  
中阿米利  
永餅屋老舖  
大黒屋  
總本家新  
京町梅安本店  
船津屋  
モンブラン  
角屋茶屋  
(愛知)  
コナハルオーストラ  
ホテルオーストラ  
西宮名物  
大須ういろ  
手打そば  
スズメ  
円恵  
高橋  
石川店  
やま川  
美忠  
さきよ  
聖南瑞  
陣屋錦  
加白至  
勢壽館  
多田原  
尾張  
ゆめ正の店  
丸小坊  
精園  
香園  
ロケッキ  
口富司  
あはれ  
し奈乃庵  
ヴィクトリア

—とうかい味の名店会

[illegible]



# 世界の「屋根の上のヴァイオリン弾き」

風早 美樹

「屋根の上のヴァイオリン弾き」は1964年9月22日、ブロードウェイのサンベリアル劇場で幕をあけ、2年半マージステイアル劇場に移り、1972年6月1日ブロードウェイ最長続演記録を更新、その2週間後7月2日、三千二百四十二公演を以て打ち切った。これらについては今では日本でもかなりよく知られている。ところでこの作品はまた、非常に横の拡がりを持った、三十二の国で、十六種の言葉によって上演されたという。この記録は今後も改められようが、手許の資料でこれまで上演した国名を連ねると、ブロードウェイでの初日から1年経たない1965年6月に初演を行った、作品にゆかりのあるイスラエル、オーストリア、デンマーク、西ドイツ、フィンランド、ノルウェー、アイスランド、スウェーデン、スペイン、フランス、オランダ、イギリス、スイス、ベルギー、ギリシア等の西欧諸国、チェコスロバキア、東ドイツ、ユーゴスラビア、ポーランド等の東欧諸国、アルゼンチン、ブラジル、ロシア、メキシコ、コロンビア、南アフリカ、ロデシア、ニギンジランド、オーストラリア、それに日本等である。なかでもフィンランドでは十五の異なるブロードクションが手がけられ、ニューヨーク駐在の大平和登氏によれば、



フランス



イギリス



アメリカ

ソ連でも上演したらしいとのことであり、前述の諸国の中でナリ、東西両ドイツでは続演中で、殊に西ドイツはアメリカの記録を破りそうな勢いである、とか。また日本のために再三上演を繰り返す国もあれば、イスラエルの例に見る如く、テルアビブの他、ハイファ、エルサレム、同国内の数地方で行った国もある。日本でも東京以外、全国の主要都市で上演されたことが存知の通りである。ところで、世界各国内で上演された「屋根の上」は、それぞれ各国でどのような過程をたどり、また話があつたのだろうか。その数例について、演出・振付の巨匠ジ・ローム・ロビンソンを助けたリチャード・アルトマンが「マーヴィン・カウフマンと共に書いた「ザ・メーキング・オブ・ア・ミュージカル」で挿話的に述べている。以下にくいつくかをこく簡単に紹介させていだこう。

この舞台は作曲のジェリー・ボック、作詞のシルビル・ハニニク、台詞のジョセフ・スウィンの三人が最初から手がけ、完成の途上、演出家に依頼、ある意味ではロビンソンが全責任を負ってくれた、これはニクタクの談話だが、ブロードウェイで開演するにあたり、多くの国から上演の申込みが製作者ハロルド・プリンスに寄せられた。



東ベルリン



イスラエル

つて、いるとのことである。さてアムステルダム公演での問題、というよりも挿話の一つは、現地のスタッフや配役は、仕組に過ぎない。故郷者が数人、例えは製作陣のスポンサー1係の女性、アメリカ1係の妻であり、オランダ語への翻訳者たるの、で下ろすことが出来な

ヤストの仕事が始まった。イスラエル、殊にテルアビブでは当時演劇活動が大変盛んで、多くの劇場が満員続いたが、これはかえって「屋根の上」の俳優を選ぶ際の障害になった。つまり、高給上、俳優間の役をより好み出来る状態にあつたからである。

アメリカからは二人の他に、装置のボリス・アロンソン、作者のステイン、それに舞台監督のルイス・ミッチェルも後から来て、現地スタッフの指導に当り、ミッチェルは台本の一部を手入れた。配役はゴディエが協力製作者として一役について、三人の候補者に絞つたが結局主役のデヴィエには、「マイ・フェア」でデフォリートを演じて好評だったコメディアンのB・J・ワイルが選ばれた。スタッフは配役の上で入籍問題にぶつかったが、稽古時間が余りにも長すぎると文句を言われたりしたが、1965年6月テルアビブの町外れ、ジャファの旧穴のアルハンブラ劇場での初日には前首相を初め、数組の閣僚夫妻等、有名客が客席を埋め、舞台は見事に成功した。そして上演中、ロシアの圧迫、ナチの迫害に耐えた人々やその子孫たちが二度も三度も観劇したのだった。

つたえるまごころ。

## Home Made Cookies

純 欧 風 銘 菓

# 泉 屋

名古屋店 名古屋南昭和橋山町1丁目19 TEL.(052)852-6201  
松坂屋(本店・喫茶店)名古屋三越(栄本店・星ヶ丘店)九条・ユニモール  
本社 京都中京区烏丸二条下ル東側 TEL.(075)231-4185-8

松葉かに (松葉かに)

かに専門お食事処

## かに道楽

●各店近くのどこでも 一般有料駐車場でも可  
●駐車場無きお持ち下さい (朝に店にサービス)

■年中無休 ■営業 11時半より

●栄 本店	(丸太町一筋北) ☎261-2821	●八 橋 店	(八事交差点西) ☎831-3456
●栄 本店	(丸太町一筋北) ☎261-2821	●八 橋 店	(八事交差点西) ☎831-3456
●栄 本店	(丸太町一筋北) ☎261-2821	●八 橋 店	(八事交差点西) ☎831-3456
●栄 本店	(丸太町一筋北) ☎261-2821	●八 橋 店	(八事交差点西) ☎831-3456



# ふれあいを大切に

## さか 海の幸 美しま盛り



新鮮な鯛、伊勢エビ、アワビ、車エビの  
おどり等、豪華な料理の盛り合わせ。



伊勢志摩国立公園鳥羽

## ホテル ニュー美しま

☎(0599)25-5111(代表)  
名古屋予約センター ☎(052)971-0123

がマジステティックに移るとほとんど時を同じくした。だがミュージカルにとっていい市場のはずのロンドンでは、開幕前夜に沈滞気味だった。前売券の売行きもあまり伸びず、プロデューサーであり、ニューヨーク演よりも優れているとの評を取った照明の当番者でもあるR・ビルプロウは「好調の「屋根の上」はロンドンが、最初の失敗公演になるのではないかとさえ怖れた。彼の懸念はこのミュージカルの主題、つまり帝政ロシア時代のユダヤ人農民の状況が、ロンドンの客の興味をそそるだろうか、というところだった。また「屋根の上」に当時、ここで併演していた「フアン・ガイル」のバーブ・ヤ「ハロー・ドリー」のマーティンのようなスターがいなかったからである。

後にこの一作でスター・ダムにのし上り、映画でも主演したデヴィッド・ボウは「まだあまり知られていなかった。トボルはイスラエル生まれで、そのなまりが稽古期間中たびたび問題になり、代えることさえ考えられた。だがデヴィッドの性格にビタリのイギリスの俳優がいなかった。もともとなまりについては他の俳優達にも難があり、全体として「屋根の上」のキャストは他の国のそれに劣ると言われたようである。ロンドン公演の話で最も面白いのはバーチック役のS・エリスのヒゲについてである。彼はトボルと共に「屋根の上」におけるイギリス生れてない例外の一人で、ハンガリーから1956年の革命後移ってきたが、俳優たちが皆ひげを生やしたのに彼だけひげがなかった。すでにテレビや映画で仕事を持っていたため都合が悪いとの理由で、契約にもつげひげで出演することを知っていた。

しかし、バーティの席上でのアルマンの柔軟な説得を開きいれ、本組みの最初の日に黒い立派なちよびひげを生やして現れた。ロンドン公演にはアリン、ロビン、ステイン、ボックに加え、ブロードウェイの指揮者M・グリーンも代役を立ててやってきて、現地の音楽監督にさまざまな助言を与えた。しかしこの公演で最も注目したのはやはりロビンの指揮で、彼は大雪のため長時間も遅れ、初日の午後には到着、劇場に駆けつけて通し稽古に立ち合った。

そして一同を招きつけた後、開幕の「トラディション」を自ら指導した。その一挙手一投足が俳優達にアドレカの人々の持つドラマと威厳を見えさせ、さまざまに心配されていた舞台は蘇った。かくて連日、ハート・マジステティック劇場は拍手が絶えず、新聞は「すばらしいミュージカル」とも「稀なこと、芸術的なボビエ・ワグネル」とも賞め、「ロビンは自身の「ウエストサイド物語」級の傑作」と讃えた。

ロビンを助けて来たアルマンはロンドン公演の2年10ヶ月後に行われた1969年11月のパリ公演についてその著で語っているが、紙数がないので紹介を数行にとどめよう。パリ公演は四人のアロデオ・サーが企画した。稽古は毎日午後と深夜に至る毎夜行なわれると知らされてアメリカ側スタッフはショックを受けた。ここでも台本翻訳の上でトラブルが生じた。不必要な下車笑いが挿入されていたのである。しかしアルマンの強硬な拒絶で撤回され、マリイ・ニ劇場の舞台は、「全体として、彼が見てきた」それまでのショーの中で最も良く演じられ、最もよく歌われた公演となったのである。

ブロードウェイで最長公演記録を樹立し、世界三十二国で上演された「屋根の上」は1976年、アメリカ建国二百周年の幕に、再びセロ・モステルがデヴィッドに扮し、ロド・ウェイのウィンドー・ガーデン劇場を飾った。それに先立ち6月1日ロスアンゼルスに始まり、デングヴァー、セントルイス、ワシントンD・C、トロント、フィラデルフィア、シカゴ、デトロイト、ボストンでの公演が歓迎されたのである。

私は当時ニューヨークに滞在中で、一行が旅へ出る前の、5月28日、いま最もヒットしている「ダンシング」を上演中のブロードウェイ劇場での稽古を見学した。衣裳もつけない、ピアノ一台のラン・スルだった。この上のはか上機嫌でひょうひょうと演じていたデヴィッドのゼロ・ステル……1977年9月急逝して今はじい。いよいよ日本のミュージカル上演史の最長公演記録を作ろうとする本公演の森繁テヴィエを天国から見ているモステル・デヴィエ、あなたの感想は？

(放送作家)

### 芳河亭 料亭

(浅間町交差点東へ50米南側・国道22号線沿い)

昼食もいたしております……  
11時～3時  
電話五七・三六三七・三六三八



## 陽は昇り また沈む Sunrise Sunset

いつも おんぶしてた  
かわいい 小さな子

いつか大きくなった 二人  
こんなに きれいになって

立派になったのか  
昨日までは 小さな子が

陽は昇り また沈み  
時うつる  
やがて 朝が来れば  
花も すぐ聞く

陽は昇り また沈み  
時うつる

よろこび 悲しみを  
のせて流れゆく

口には出して 云えない  
今日の よろこびよ

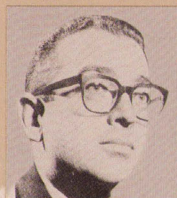
やさしく手をとりあって  
いつまでも

しあわせそうな二人  
かたく 結ばれて  
いつの日にか 私たちも

陽は昇り また沈み  
時うつる  
よろこび 悲しみを  
のせて流れゆく

©Sun-beam Music, Inc.  
The Rights For Japan Assigned Intersong K. K.  
日本音楽著作権協会 (公) 許諾番号 第8108258号

## 親愛なる森繁さま



「屋根の上のヴァイオリン弾き」の作曲家として、心からのお祝いを貴方にお送りしたいと思います。

「ヴァイオリン弾き」が日本に於けるアメリカミュージカルの上演記録のレコードを樹立し、しかも、そのすべての公演のデヴィエが貴方によって演じられたことを私は今知らされました。

この輝かしい成果は、もちろん一切があなたに帰すべきであり、私共は貴方のこの輝かしい成果のお手伝いが出来た事を名譽とするものです。

ブラヴォー!

そして

人生に乾杯!

心をこめて

ジェリー・ボック

December 4, 1978

Dear Mr. Morishige,

As the composer of "Fiddler On The Roof" I wish to offer you my heartiest congratulations. I have just learned that Fiddler will hold the record for the most performances of any American musical presented in Japan, and that you have played Tevye in every performance. Your remarkable achievement is, of course, an honor to you. It is also an honor to us for being associated with such an achievement.

Bravo!, and

To Life!

Most sincerely,

*Very Best*

## 東宝オーケストラ連名

指 揮	大 谷 義 一
ソロヴァイオリン	森 田 耕 蔵
ヴァイオリン	馬 場 晴 吉
	池 田 義 靖
	平 岡 正 雄
	押 田 義 清
セ ロ	田 井 康 道
ベ ー ス	小 森 知 治
フ ル ー ト	神 山 顯 厳
オ ー ボ エ	後 藤 恵 治
ク ラ リ ネ ッ ト	塩 井 芳 幸
	吉 田 敬 二
フ ァ ゴ ッ ト	安 田 勇
ホ ル ン	畑 中 喜 代 美
ト ラ ン ペ ッ ト	池 田 文 隆
	浅 沼 雅 夫
ト ロ ン ボ ー ン	茂 尾 修 二
ド ラ ム ス	尾 正 彦
ビ ア ノ	辻 井 渥 四
ギター、マンドリン	山 田 た か し
ア コ ー デ ィ オ ン	小 林 靖 宏
インスベクター	池 田 雅 夫
	安 田 勇
リハーサルピアノ	辻 井 渥 四

## ミュージカル・ナンバー

### □第1幕

伝統のうた (TRADITION) デヴィエと村人たち

すてきな人を見つけてね (MATCHMAKER, MATCHMAKER) ツァイトル、ホーデル、チャヴァ

金持なら (IF I WERE A RICH MAN) デヴィエ

安息日の祈り (SABBATH PRAYER) デヴィエ、ゴールデと村人たち

人生に乾杯 (TO LIFE) デヴィエ、ラザールほか

奇蹟の中の奇蹟 (MIRACLE OF MIRACLES) モーテル

夢 (THE DREAM) デヴィエ、ゴールデ、ツァイトル愛さん、フルマセーラ、村人たち

陽は昇りまた沈む (SUNRISE, SUNSET) デヴィエ、ゴールデと村人たち

ビンの踊り (BOTTLE DANCE)

結婚式の踊り (WEDDING DANCE) } 村人たち

### □第2幕

すべてが今はこの手に (NOW I HAVE EVERYTHING) バーチック、ホーデル

愛してるかい (DO YOU LOVE ME?) デヴィエ、ゴールデ

ゴシップ (I JUST HEARD) イエンテと村人たち

愛する我が家をはなれて (FAR FROM THE HOME I LOVE) ホーデル

チャヴァよ (CHAVA) デヴィエ

アナテフカ (ANATEVKA) デヴィエ、ゴールデ、イエンテ、ラザール、メンデル、アヴラム







# 「屋根の上のヴァイオリン弾き」に寄せられた手紙

このミュージカルが上演されるたびに、観客のみならず感動の便りがたくさん届きます。その熱いメッセージが、つぎの公演への力強い支えとなり、はげましとなっていきます。昨春の、帝国劇場での三か月公演のときに寄せられた手紙と電報の一部をご紹介します。二観劇の参考になれば幸いです。都合により一部省略いたしました。

## 〈手紙〉

森繁さん初めまして。私は中二の女の子です。6月1日、母といっしょに父の買ってくれた券で見に行きました。イの33です。

ユダヤ人はいつも屋根の上のヴァイオリン弾きだったんですね。自分の屋根を、国を持っていないなんて。それを追いつくロシア人が憎く思えて、なんだかくやして、ずっとおまわりさん役の人をならんてました。その時、私ははっとしたんです。私達日本人も似たようなことをしてたんじゃなかった。中国人に対して、戦争など、差別は絶対にいけない、戦争もういや、もう、ユダヤ人のような屋根を持ってない民族をつつくちやいけないと思ひました。

ラストシーンで、テヴィエ一家の馬車の後から、ヴァイオリン弾きもいっしょについていきましたね。あれは、ユダヤ人は、テヴィエ一家はずっと屋根の上のヴァイオリン弾きがあったことですね。かなしいな。でも、あの時力一杯車を引いてテヴィエバ達を見て、これから何かがあつたに違いないけど、足を強くふんばって、屋根の上でがんばっててくれたって思ひました。パパ、あれだけの会場の人とつたになれるなんて、とてもすばらしい！ 本出はどうもありがとうございます。

神奈川県厚木市・中学一年 津金 かやのさん

私は以前、ユダヤ人に対してかなりの非道な事をするのが多い事を聞きました。例えば「アンネの日記」でもそうですが、ドイツ人の非道すぎる仕打ち、第一次世界大戦の時の「毒ガス」も、考えるだけでもむかついてきます。ここではロシア人ですが、ユダヤ人はどこへ行ってもじまにされるようにした。人種が違うだけの理由でひどく扱われるのはかわいそうです。平和が壊される思いです。私は人種差別はなくならなければいいなと思うのでつくづく感じました。

東京都立本所高等学校三年 新井 久美子さん

お元気に、公演をお続けのことと思います。

毎日、子ども達を相手の仕事をしておりますが、忙しい忙しい理由に、一番大切な愛を忘れていたような気が致します。反省の機会を与えてくれた「屋根の上のヴァイオリン弾き」に感謝致します。あの夜のテヴィエの顔が忘れられ、五月にまたテヴィエをはじめアナツカのお音さんにお会いしたくて帝劇にお邪魔することになりました。とてもとても楽しみにしております。長い期間ですので、くれぐれもお気を付けて下さいませ。

東京都葛飾区 三谷 いつ子さん

「風とともに」で華やかなけらおとしをしました帝国劇場でしたが、私はそのとき突然の眼病のため東大病院のベッドの上でございました。あれから十四年のことな「屋根の上のヴァイオリン弾き」を上演したことをテレビにて知りました。早速、問い合わせた結果、連日満員とのこと、六月份がこれから売り出されることになりました。その日の朝、わたしはマローン(盲導犬)といっしょに前売券を買に行きました。帝国劇場にはいったところあるお友達に電話をかけた。盲導犬はいれることを確認してありましたが、かかるとはなしかつきました。

席に着き、おつきましましたところで拍手がおり、開幕だわかりました。最初はアレだれか？ 森繁さんとかまでずっと時間がかかりました。そのうち、わたしまで舞台の上の登場人物になつたような気がして、うっとりとき聞き入っております。

かえりに係のかたからカーネーションの花束をいただきました。すばらしい舞台を見ていただき、それに、また、お花までいただき感激いたしました。お点字でかいておりますことを、失礼します。

埼玉県熊谷市 沢田 清子さん

始めてのミュージカル観劇に「屋根の上のヴァイオリン弾き」にめぐり合ったことを幸運に思う。というのは、新しいジャンルに接した興奮もさることながら、昔の時代を生きてきた各民族の伝統と興味のあふれる僕には、まったく未知で異色世界が展開された。

そういう中でテヴィエが、それでも「すこすこ」淡々となつてはいるが「ユモア」を忘れたすに奮闘した。それを現代人なら、はかないとか悲壮とか評したくなるが、無事とも悲壮とも本人が全然意識しないままお茶の葉に、淡々としつこくつこうとした姿こそ、痛ましくもあり、頼もしくもあり、しりとり観る者を笑いに誘うが、苦味を涙なしには突つていられなかった。最後にはその泣き交いさへも許されなくなつて、テヴィエと村人たちは最後は一度輪になつてから去つて行った。すべて無のままだが、明日からはこの陽の昇りを迎え、またこの陽の沈みを見定められよう、という風に聞えて、ただもうシーンと身にとまらされた思ひだつた。

「屋根の上のヴァイオリン弾き」にかけた森繁先生の良心的芸術家の姿勢に心から尊敬すると同時に、その舞台を国の人たちに見られたらなと思つてならない。

中国北京語言大学日本語講師 嚴 安 正さん

テヴィエさん、ありがとうございます。あなたが沖繩の人々に残した感動は、いまだ続いています。戦禍の中で自らの命を危険にさらされ、そして平和を、やすらぎを求めて山野を逃げまわつた者には、テヴィエの苦しみと悲しみがかに伝わってくるのです。

そして人々の意志とは無関係に、そして突然に歴史の変化は襲ってくるのです。沖繩もそうでした。人々は、その恐い力を知っています。そしてそれに立ち向う勇氣と術を知っています。しかし、結局涼くのは善良な人々なのです。テヴィエがアナツカを愛したように、人々は自分の故郷を愛しています。たとえそこが窮乏した土地、辺鄙な果ての地であつても故郷は素晴らしいものです。

三十年前、テヴィエやゴルデ等と同じように大八車に、手に肩に、持っている限りのものを持って自分の故郷を追われた沖繩の人々は、テヴィエの姿に自らの姿をオーバーラップしたのです。だからテヴィエといっしょに涙したのです。でも沖繩の人々は幸せです。帰郷の故郷があつたから。

森繁先生、ありがとうございます。

沖繩テレビ 又吉 康弘さん

〈電報〉 昨年6月、帝国劇場の千秋楽456回めの舞台に寄せられた海外からの電報です。

私は、「屋根の上のヴァイオリン弾き」を国際的な人気作品にして下さる貴殿の御努力と御功績に、非常に感動されております。貴殿は私の大好きなテヴィエです。貴殿と全キャスト、スタッフの皆様が心からの感謝を申し上げます。

ジョセフ・スライン

松葉は永久に生き残り、ときわ木は常に緑を枝に残している。ブラボ！ 久彌！ お元気で御活躍下さい。

ジェリ・ボック

ボリス・アロンソン

何年もの間に、あなたに申し上げた通り「もし私が、小さな村の日本人の役を演じなければならなかったら……私は、あなたユダヤ人のテヴィエになり切つて、いつまでもテヴィエといっしょに話下す。」という切なかつたと思います。おめでとございませう。

テヴィエのテヴィエ ハンニエル・ベルナルディ

日本の演劇に大いなる貢献をされたあなたにヴァイオリン弾きの仲間の一として大きな抱擁を贈ります。

あなたの友 アイザック・スタン (バイオリンスト)

## 会店名味のかいとう

珈琲専門店のパイオニア……

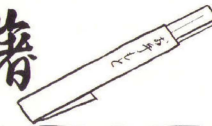
聖 葡萄 留

本店・瑞穂区松栄町2-9-9 ☎833-0127

栄店・中区栄3-8-8(平和ビル1F) ☎261-3086

大森店・守山区大字大森字中町田758 ☎798-1700

制 著



愛和商会

ナゴヤ・中区・松原三 ☎321-0015(代)



贈 答 品  
新装開店用粗品  
唄のしおり  
広告マツチ



珈 琲 館



## オリジナル・スタッフの紹介

ジェローム・ロビンズ  
Jerome Robbins



アメリカのミュージカル史上最も精力的に演出、振付家として活躍しているのが、ジェローム・ロビンズであろう。  
「ウェストサイド物語」「ファンシー・フリー」「オシ・ザ・ダウ」「ジパシー」「ピーター・パン」など数多くの作品で彼は生き生きとしたアメリカの演劇芸術を創作した中でも「ウェストサイド物語」における演出と振付は、世間を驚かせた。映画の「ウェストサイド物語」を監督したり、ロジャースとハーマースタイン二世の「王様と私」の振付もしている。

アメリカで最もヒットしている「屋根の上のヴァイオリン弾き」でプロデューサーのハロルド・プリンスと組んだこの二人は「パジャマ・ゲーム」で一緒に仕事をしたが、この時、彼はジョージ・アボットと共に演出をした。  
最初は演劇志願だったが、「ゲレートのディール」などのミュージカルで踊り手として出発したが始まりである。やがてバレエ団のソロ・ダンサー兼、振付師となり「ファンシー・フリー」の振付をした一躍名を成し、後にニューヨーク・シティ・バレエの多くのバレエを作った。  
一九五七年、自分のバレエ団を結成。「バレエUSA」と呼ぶ。  
一九六四年フランス政府からレジオン・ドヌール勲章を与えられた。  
我が国では日生劇場「ウェストサイド物語」公演のため一九六四年十一月上旬来日している。

ハロルド・プリンス  
Harold Prince



デヴィッド・メリックと並ぶブロードウェイの逸材。プロデューサー兼演出家。  
ニューヨーク生まれのドイツ系ユダヤ人。ペンシルベニア大学在学中、その演劇活動をジョージ・アボットに看目され、卒業後、若干のテレビ活動を経て朝鮮戦争に応召。除隊後は舞台監督を経、やがてプロデューサーとして頭角をあらわし、「パジャマ・ゲーム」「ウェストサイド物語」「屋根の上のヴァイオリン弾き」等、ミュージカル史上不朽の名作を数々ものにした。  
一九六二年頃から演出家としても躍し、「Company」「キャパレー」「Little Night Music」等、最優秀演出賞を獲得して。最新作は「Sweeney Todd」である。

シロム・アレイハム  
Sholom Aleichem

シロム・アレイハムは、近代のダヤ人著作者の中で一番愛されている作家である。彼は人物を描写するのに、優れた天才の持ち主であった。  
自分たちの民族の考え、心、英知、そしてそれらを増進して、彼ら特有のコバを完全にとらえた。「古い国」に「ゲレートの娘たち」は古典で、その中にこの最も愛されている作家の最高の代表的物語がいくつか集められている。そこに登場する人物は、底抜けに明るく人間、徹底的な人間、歪んだのや、非常識なのや、悲劇的なや、またさがる愛すべき人物が出てくる。これらの物語は、いままでないほど心をとらえ笑わせるだろうが、同時に深心に触れるものがある。何故だろうか？ それはシロム・アレイハムは偉大な作家である証拠で、彼の興味津々たるユダモアは、人々の心とる胸の中に、愛の本性を訴えるものがあつたからだ。

ジョセフ・スタイン  
Joseph Stein



「屋根の上のヴァイオリン弾き」は舞台台本に彼の書いた八番目の主要作品である。他に「エンター・ラッパング」「ミスター・ワシントン」「ザ・ボディ・ビュティフル」それにニューヨークやロンドンでヒットした「アレイン・アンド・ファンシー」がある。テレビには、ミッド・シティ・ザ・フィル・シルバース、ピクチャー・ボージ、デビー・レイナルズ等のワシントン・ジョーのものを書いた。彼の演劇界での成功は、レビュ・スケッチから始まって芝居に移った。彼には妻と三人の息子がいる。

ジェリー・ボックと  
シエルドン・ハーニック  
Jerry Bock and Sheldon Harnick



ジェリー・ボック、シエルドン・ハーニック、ハロルド・プリンスの大成の共作はピエリッパ賞受賞作品の「ファイオレノ」に始まり、「アンダー・ロイヤル」「ミュー・ラプス・ミー」とつづいた。  
「屋根の上のヴァイオリン弾き」と共にブロードウェイで大ヒットした「アール・トリ」はボックとハーニックが組んだ作品である。  
ジェリー・ボックの最初の全作曲は「ミスター・ワシントン」で、サミー・デヴィス・ジュニアが主演し、その中には「ツイ・タロイズ・フォー・コンフォート」というヒット・ソングが含まれている。

シエルドン・ハーニックはヴァイオリン演奏者であったが、詞を書き始め、ジェリー・ボックとミュージカル「ザ・ボディ・ビュティフル」で組む以前に成功していたが、このミュージカルで、ハロルド・プリンスに二人の才能が見出された。  
また、ネルソンについてのミュージカル、「トラファルガー」でも一緒に仕事をしている。

### サニー・ペイス

＜振付担当作品＞

映画：「屋根の上のヴァイオリン弾き」

演劇：「カンタベリー物語」：エーレン・オニール劇場（ニューヨーク）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

演劇：「カンタベリー物語」：ハー・マジェステイス劇場（オーストラリア・メルボルン）

徳

宣伝にカレンダー  
ご贈答に手帳

株式会社 美吉屋

名古屋市中区錦三丁目8の30  
951-3448(みよしや)  
電話 951-1091-3(とくさん)



＜名古屋本店貸付住宅指定建設＞

貸ビル 事務所・店舗・住居・広告塔  
ガレージ・社員室

- 1号館 中区丸の内3(テレビ塔北)
- 2号館 中区丸の内1(長銀ビル北)
- 3号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 4号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 5号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 6号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 7号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 8号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 9号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 10号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 11号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 12号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 13号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 14号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 15号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 16号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 17号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 18号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 19号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)
- 20号館 千種区山門町1(日泰寺門脇)

お問合せ 961-8888-6000

俳句の味 名刀の味 鋳業 俳風お好焼

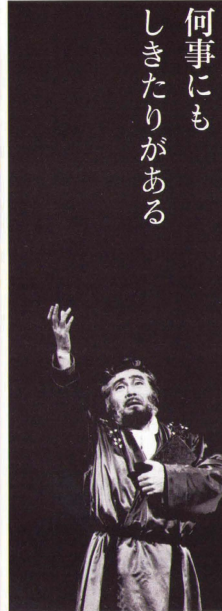
お茶うけに、ご贈答に、お土産にご利用下さい。●中日劇場内ロビー直営売店にて販売しております。親切なお帰りは是非お求め下さい。

合名会社 平木製菓 本社・工場 三重県上野市忍町2596  
電話0595(21)0981番代





# 何事にも しきたりがある



この劇の主役アサフ・エのいう通り、何事にも「しきたり」がある。一服のくいかた、服の着かた、頭巾をかぶり、礼拝用の肩掛けをする」と、ユダヤ人たちは遠く、旧約聖書に基に人間が生ずる上に必要とされる規則の織り込まれた「タムムド」(TAHMUD)と呼ばれる「タムムド」から出ているものである。彼らの社会秩序や、寝食、健康、結婚、衣服、結婚等の生活環境はこの「タムムド」によって保たれ、それらの中で、伝統は厳然として歴史とともに培われてきた。

## 食事の方法

家族が一緒に食事をする金曜日の夜には、主婦はまず彼女のその日のメニューに従って、テーブルのセッティングを行う。ハラリ(HALLAH)と名づけられたパンは主人に近い所に置かれ、カバリがかけられる。そしてすべて食卓の用意が出来たら、ロウソクに火をつけて家族を食堂に招き入れる。ワイン・グラスは各人の食膳に置かれ、そのワイン・グラスは、男の分は女より立派な彫刻をほどこしたものであるが、最初の一杯のキドゥッシュ(KIDUSH)と呼ばれるワイン・グラスは主人——息子——娘、最後に主婦という順序で回し、食前のお祈りを捧げる。

パンは細く大くちの大きさをちぎって各々の食膳に置く。その傍に塩が置いてあって、それをつけながら食べる。この金曜日の夜は、動物(豚はもつての外)の肉及び動物から摂られたミルク、あるいは油、バター等一切禁じられている。従ってバターなどはつけられない。テーブルの上の食物に対する観念は、われわれ日本人の持った観念と違い、一種の神聖に供えられたものと考えられている。食事の時はみだりに各人が話をしてはならない。

何と云え、この神への供え物を感謝の念をもって食しなければならぬ。一週の内六日間は朝から晩まで、犬のようになつて動物に飼くが、この金曜日の落陽から土曜日の落陽までの一日分は、気分だけはあたかも貴族のような気持となつて、ゆつたりと家族中心に囲み入る。この家族中心の夕食などは、なんと現代の日本人と考えるが違ふ。が、なんとすばらしいバイタリテイに富んだ生活で、その底には、人間的な美しさが溢れている。

## 眠りかた

枕・靴下・手袋その他左右一組で身につけたものを脱ぐ時は、左の分からとる。爪切りも左からする。この左から先というところは心臓が左にあるからである。心臓は感情のものであるといふふに考えられ、寝る時も左側から先に寝る。われわれのように仰向けや寝返りを打って寝るようになって寝てしまふようになりかたはない。そして適宜、左側から逆に右側へと静かに寝返る。これは健康に一番よい方向であるとも信じられているからだそうである。

## 人さし指と中指を軽く口のあたりに当てる

ユダヤ人の人たちはときどきこういう仕草をすることがある。これは自分の人さし指と中指に「ビツ、ビツ」と二回く返して、つばをかけるという仕草である。アラ(BENARA)即ち、悪魔の目に対して行うものである。これは何か自分に都合が悪い時などという仕草をする。ユダヤ人たちはやはり最も悪い仕草であると考えられているようだ。

## 結婚式

結婚式は家がキャンレイ(CANOPY)を支えて、その下に花婿・花嫁が並ぶ。まず花嫁さんが花婿さんの周囲を七回まわる。一番初めに花婿がラビから祝福されて、注いでもらったワインを飲み、その後で花嫁が飲む。花婿はコープをさかさまにして自分の足許に置き、マイザルトープ(MAZEL TOU)といってコープを唱える。なぜ別れるかというところ、ローマ帝国のティウスによってエルサレムの神殿が壊された屈辱をユダヤ教を信ずる者として、いかに幸福な時でも、絶対に忘れないようにとの戒めのためである。

現在七十歳の人たちでもこの劇の背景の時代には生れたばかりであり、彼らの父母が、この劇に見られるように、いかにタルムードをしつかりと抱いて異教徒からの迫害あるいは同教徒同士の間での中を歩いて来たか、その経緯の中に無数の印象として残っているが、これらの古いしきたりは職業的な地位にある人は別として、一般人には大事典七冊分あるものが常に頭にある訳ではなく、また時代の流れに従ってその形、意味がモダン化しているように見える。またあるものは人類の居るのよう退化し、いまやお伽話のようになってい



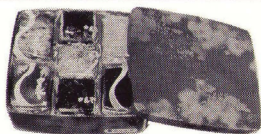
表紙・画

## 「屋根の上のヴァイオリン弾き」

生沢 朗画伯

手焼・風味 あらや

美味しく、めし上がっていただくために、昔ながらの手焼きの製法を頑固に守り、からりと仕上げた手焼きかんの、みのかめあらです。



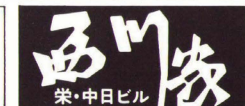
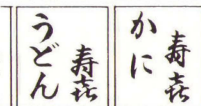
おいに、お待ち合せに優れます

楓喫茶

本店／千種区内山崎3-68(今池線通り)  
2733-11899  
営業時間／AMS:00-PM3:00  
(日曜休み)駐車場有



西川家がお届けする  
名古屋の三大味覚



簡単、らくらく クラス会お引受け ●住所録をお持ちください ●案内状の作成から郵送まですべて無料!!

栄本店  
☎261-1333  
栄南店  
☎261-7731  
(駐車場完備)

西川家  
栄・中日ビル  
東へ3分



# FIDDLER ON THE ROOF

THE PLACE: Anatevka, a village in Russia.  
THE TIME: 1905, on the eve of the revolutionary period.

## JAPANESE PRODUCTION STAFF

Translator ..... TAKESHI KURAHASHI  
Lyrics Translated by ..... KAZUKO WAKAYA  
KOHTARO TAKI  
Choreographer & Director (JAPANESE Production)  
..... SAMMY BAYES  
assist. Director ..... NORIO MIYAZAKI  
HIROSHI SATO  
assist. Choreographer ..... MICHINOSUKE SAKAGAMI  
Musical Director ..... KOHTARO TAKI  
RYO FUKUI  
Sets Designer ..... BORIS ARONSON  
KOTARO MAKI  
Costume Designer ..... BORIS ARONSON  
KOTARO MAKI  
Lighting Designer ..... SABURO OHBA  
assist. Lighting Designer ..... NAOKI OGI  
Effecting Designer ..... AKIRA HOMMA  
Orchestra ..... TOHO Orchestra  
Conductor ..... GIICHI OHTANI  
Japanese Production Arranged by ..... TSUTOMU SATO  
MAKOTO NAGANO  
KIYOSHI FURUKAWA

## SYNOPSIS:

Time is 1905 when Russia was ruled by the Czar. This story takes place in a small village in Russia, which is called Anatevka where a group of Jewish families have settled down. These people still faithfully observe the old Jewish tradition.

Tevey is a hard-working milkman of the village, who talks to God almost on a man-to-man basis and happily misquotes the Good Book to cover any situation. Golde is his sharp-tongued but devoted wife and mother of five dutiful daughters. The vil-

## CAST

Tevey, the Dairyman	HISAYA MORISHIGE
Golde, his wife	KAORU YODO
Tzeitel	MIKIKO OTONASHI
Hodel	JUN ANNA
Chava	YURIKO MATSUOKA
his daughters	CHINU IZUMI
Shprintze	JUNKO HAYASHI
Bielke	NATSUKO KAHARA
Yente, the Matchmaker	CHIYOSHI TOMIMATSU
Motel, the Tailor	TAKAO INOUE
Perchik, the Student	TSUNEHICO KAMIJO
Lazar Wolf, the Butcher	AKIO TANAKA
Mordcha, the Innkeeper	KIITON MASUDA
Rabbi	NAOYA MIKAMI
Mendel, his son	TAKUMA MIYA
Avram, the Bookseller	DOJI YAMANAKA
Nachum, the Beggar	SHIN YASUDA
Yussel, the Hatmaker	KEIKO TOMITA
Grandma Tzeitel, Golde's grandmother	KOKO ARAI
Fruma-Sarah, Lazar Wolf's wife	FUJIO SUGA
Constable	HIRONORI TANIOKA
Fyedka	IKUKO TAKAHASHI
Shandel, Motel's mother	TOSHIO KANO
Sasha	MICHINOSUKE SAKAGAMI
The Fiddler	

and  
Many other villagers and Russians.

lagers rule the village according to their old traditions and have no interest in the world outside.

Yente is the villager's warm-hearted but garrulous and gossip-loving match-maker. One day she comes to Tevey's house with a good news. She says Tevey's oldest daughter, Tzeitel, is desired by Lazar Wolf, wealthy butcher and widow who sees the perfect wife in Tzeitel. Lazar is over 40.....too old for Tzeitel and not well educated.....but Tevey thinks it all right to give

## MUSICAL NUMBERS

### ACT I.

TRADITION ..... Tevey and the Villagers  
MATCHMAKER, MATCHMAKER ..... Tzeitel, Hodel, and Chava  
IF I WERE A RICH MAN ..... Tevey  
SABBATH PRAYER ..... Tevey, Golde, and the Villagers  
TO LIFE ..... Tevey, Lazar, and Men  
MIRACLE OF MIRACLES ..... Motel  
THE DREAM ..... Tevey, Golde, Grandma Tzeitel,  
Fruma-Sarah and the Villagers  
SUNRISE, SUNSET ..... Tevey, Golde, and the Villagers  
BOTTLE DANCE ..... The villagers  
WEDDING DANCE ..... The Villagers

### ACT II.

NOW I HAVE EVERYTHING ..... Perchik and Hodel  
DO YOU LOVE ME? ..... Tevey and Golde  
I JUST HEARD ..... Yente and the Villagers  
FAR FROM THE HOME I LOVE ..... Hodel  
ANATEVKA ..... Tevey, Golde, Yente, Lazar, Mendel and Avram  
EPILOGUE ..... THE ENTIRE COMPANY

his daughter to him if Lazar can make her happy, and at least he is rich enough not to drive his daughter to starvation.

One day Tevey meets Perchik, revolutionary young university graduate, and asks him to look after his daughters' studying while he can offer board and meals in exchange. Perchik's arrival in Anatevka brings with it the wind of change, though.

Tzeitel is practical and strong-willed. and the first of Tevey's five daughters to break with tradition and marry for love. Because she is in love with Motel, the timid tailor with two ambitions, to marry Tzeitel and to buy a sewing machine. Their marriage means they are against the village rules, but Tevey finally gives his consent to their marriage as Motel is a nice and sincere hard-working young man.

At their wedding Lazar, the butcher, congratulates a newly wedded couple. Yente, the match-maker, is not happy because Tzeitel did not accept her marriage arrangement. So she brings up an argument. But people attending the reception later start dancing in celebration. At the climax of the reception a good-natured police sergeant breaks into the house with his men and ruins the party. This is done by orders from the authorities in order to oppress the Jews.

Tzeitel and Motel try to make a happy home together although they are poor. Tevey's second daughter, Hodel, is the boldest of his daughters and admires the non-conformist outlook of the man she loves, Perchik. She wants to marry him, but before her

wedding takes place, Perchik leaves the village to join the revolutionary group. He thinks that it is his vocation and more important than his love for Hodel.

Later it is rumoured that Perchik has been arrested and put to hard labour in Siberia. So Hodel leaves for Siberia to be near her love.

Tevey's third daughter, Chava, is torn between her affection for her family and her love for a traditional enemy. Because she is in love with Fyedka, a Russian, whose horizons are broader than the average Russian villager and whose love for a Jewish girl changes his life.

Later when relatives gather at Motel's house to bless his newborn baby, Chava confesses her intention to marry Fyedka. However, Tevey never allows such a marriage between the people of different religions. At last Chava leaves home and runs away with Fyedka to have a wedding at a Russian church. Disgusted, poor Tevey says, "Chava is dead! Let's forget her." However more decisive blow is yet to attack Tevey: the authorities demand the Jewish people in Anatevka to leave the village within 3 days. Yente leaves for the sacred land, Israel, and others for America where there is freedom.

Thus Tevey, having being stripped of all his foothold on the old tradition, escapes to the new world with his family.



- 中日劇場ご利用のご案内
- 中日劇場の切符のご予約は電話でもお受けしています。発売日前にご予約いただいたときは発売日から3日以内に、発売中ときは翌日、翌々日中に公演の日にかかるとのものは前日までに、それぞれお引き取りいただくことになっています。お席についてはおまかせいただくことを原則としています。お問い合わせ先 (052) 261-2046・0088
- 前売り券はつぎのところで扱っております。
- 【名古屋=052】中日劇場261-1111内線273/中日サービスセンター261-8935/松坂屋251-1841/名古屋一級251-4377/丸栄251-1211/名鉄観光サービス586-2400/毎日ビル571-9902/栄町ビル962-4319/名鉄観光栄町サービスセンター951-6436/ユニモール586-1277/東新951-0312/CBC241-8111/本陣482-0040/名大生協781-9919
- 〈音楽公演のみ〉ヤマハ201-1555/音楽堂961-0115
- 【一宮=0586】一宮観光サービス72-8231
- 【岡崎=0564】ジャスコ21-0211/富士プレーガイド21-5161/レイオ23-3838
- 【豊橋=0532】西武53-2111
- 【豊田=0565】第一旅行社31-1535
- 【春日井=0568】春日井西武プレーガイド84-3131内線218・219
- 【岐阜=0582】近鉄65-3111/新岐阜65/7111/高島屋64-1101
- 【四日市=0593】ジャスコ51-1111
- 【津=0592】ジャスコ27-8181
- 【伊勢=0596】中日プレーガイド24-5945
- ご招待会、懇談会、親睦会などの催しにご利用ください。
- 団体のご懇談については、ご一報したい係員がお伺いして食事などのお打ち合わせをさせていただきます。
- ご連絡先 (052) 直通261-2046・0088 代表261-1111 内線 251・252
- ＜中日劇場友の会のご案内＞
- 入会金 400円 (12ヶ月有効・継続改更のときは300円)
- 特典 ご入会と同時に贈呈する会員証でつぎの特典が受けられます。
1. 中日劇場自主公演の入場券を会員証一葉につき一名、特別割引料金でお求めいただけます。(特別興行の場合をのぞきます)
  2. 中日劇場で公演の名古屋音楽協会主催の音楽会入場券を協会員扱い特別割引料金でお求めいただけます。
  3. その他
- ご入会受け付け
- 中日劇場窓口で受け付けをしています。

中日劇場  
公演ごあんない

団体観劇・お問い合わせは営業部 ☎(052)261-2046・0088

7月	1日(※)	文学座 肥前風土記	S席=4500円 A席=3500円 B席=2500円
前日(中)	2日(※)	小瀬 格、高原駿雄、高橋悦史、久吹寿子	
	4日(※)	加藤登紀子コンサート	S席=3800円 A席=3000円 B席=2500円
	5日(※)	中日民謡フェスティバル	3000円 (指定席)
	9日(※)	夏の爆笑ミュージカル	
	30日(※)	極楽島物語	A席=5000円 B席=3000円 C席=2000円
		■6月6日 前売り開始	
8月	5日(※)	松竹特別公演	
	10日(※)	瀧の白糸	A席=5000円 B席=3000円
		舞踊 艶姿情春秋	
	15日(全)	重要無形文化財 文楽	
	16日(全)		

一部変更があるかもしれません

歴史と信用を誇る結婚相談 名古屋寿会 (初婚・再婚) 年令不問

☎(052)833-5977・832-5571・八事天道910

本部：京都 支部：東京・大阪・宇治・京都南・四国・広島・九州

フランス料理

# 白亜館



各 国 民 芸 品

コクサイ民芸

名古屋・サカエカ南名店街(中日ビル入口) 961-6071



創業明治40年 名古屋名物 煮込うどん 味の民芸品 山本屋本店

中日ビル店(中日ビルB2)  
☎241-1939

本店(中村大門バス停前)  
☎482-2428

ガス器具総合メーカーのパロマ  
豊富な経験と高い技術で  
より信頼される製品を  
おとどけます。

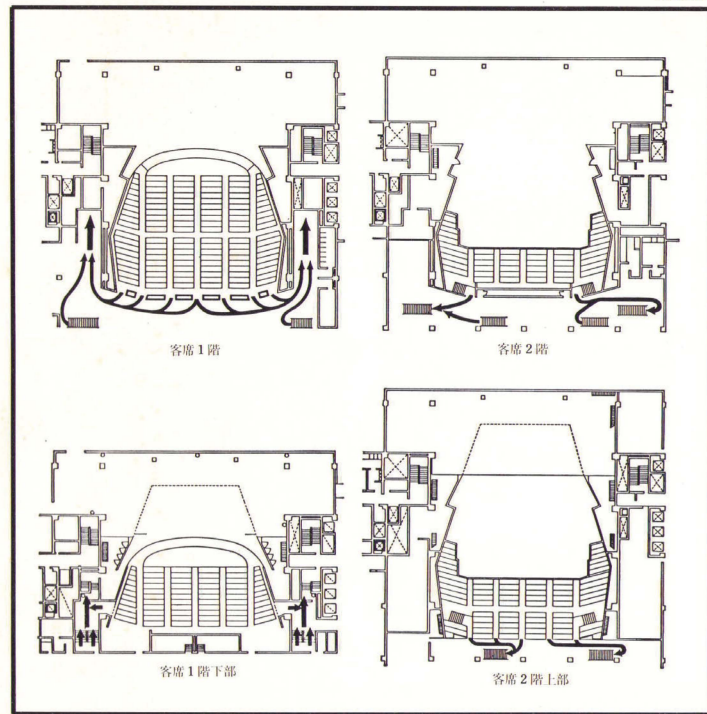


パロマの豊富な経験と技術から生まれた製品は全国のご家庭で(便利)(丈夫)(安全)なガス器具としてご信頼いただいています。あすの暮らしに生きたる新製品の開発とよのちのちまで安心してお使いいただくためのサービス網のいっそうの拡充もすすめてまいります。

全国で広くご愛用  
パロマ  
ガス器具

70年の経験と技術を誇る 株式会社パロマ  
本社 名古屋瑞穂区瑞穂町24 平67 TEL.822-1111





## 〈場内のご案内〉

1 階=インフォメーション(受付)、切符売り場、クローク

食堂=劇場入り口の向かい側にごさいます。お出入りの際に入場券をお見せください。

場内売店=客席1階、2階のロビーにごさいます。貸しオベラグッズ(クローク)もご利用ください。

化粧室=1~2階ロビーの舞台に向かって右端にごさいます。

非常の際は左図のように、客席1階下部の南北両非常階段を、劇場係員の指示に従って待避していただくようお願い申し上げます。なお、非常階段は劇場専用になっています。

## 〈おねがい〉

1. 開演中客席へのお出入りは場内のふんいきをこわし、みなさまのご迷惑になります。開演5分前にはご退席くださいますようお願い申し上げます。
2. 場内での写真撮影、喫煙は固くお断りいたします。
3. ロビーの壁面(光る壁)は堅い材質なので、おかけのないよう、とくにお子さまはお気を付けてください。
4. 出演者の病気、その他の事故による代演は悪しからずご了承ください。
5. お席の番号をご自宅にお控え置きください。急用で呼び出しの際などご便利です。
6. 中日劇場は、みなさまに親しんでいただけるよう努力していますが、ご希望、ご注意などがございましたら、ご遠慮なく事務所までお申し出ください。

1981.6.2

編集・発行 中日劇場&lt;中日新聞文化芸術局&gt;

印刷 興生印刷(株)



宴会・  
クラス会・  
おさらい会に

廣壽司本店

なごや・柳橋  
地下鉄名駅本店街  
国鉄名駅地下街